県立病院チャレンジ(挑戦)プラン 2019

実施計画　(2019～2022)

２０１９～２０２１年度取組実績

２０２２年度計画

令和５年２月

青 森 県 病 院 局

県立病院チャレンジ(挑戦)プラン 2019　実施計画について

１　趣旨

「県立病院チャレンジ(挑戦)プラン　2019」実施計画は、「県立病院チャレンジ(挑戦)プラン 2019」の取組方策に係る具体的な取組事項等を定めたものです。

この実施計画に従い、病院局一丸となって取り組み、毎年度、取組状況を点検し、必要に応じて見直し（取組方策の追加、内容の充実等）を行いながら、着実な推進を図っていきます。

２　計画期間

2019年度から2022年度まで（「県立病院チャレンジ(挑戦)プラン　2019」の取組期間）。

３　掲載内容

「県立病院チャレンジ(挑戦)プラン　2019」の取組方策に係る具体的な取組内容と計画期間内の取組工程を記載しています。

なお、各取組事項の着実な実施を図るため、毎年度、取組実績と今後の取組計画を記載し、取組状況を明らかにしていきます。

４　推進方法

毎年度、取組状況について病院事業管理者によるヒアリングを実施し、取組の進捗状況を点検するとともに、必要に応じて見直し（取組方策の追加、内容の充実等）を行い、計画の着実な推進を図っていきます。

また、取組状況の点検・見直しに当たっては、毎年度、取組状況の取りまとめ結果を、外部有識者等で構成する「青森県立病院経営評価会議」に報告し、その意見等を踏まえながら行っていきます。

なお、各年度の取組状況等については、病院局のホームページを通じて、毎年度、公表します。

【実施計画の見方】

取組の名称（取組方策）を記載します。

整理番号		診療科（部署）名	○○科（○○センター）
取組方策	○○の導入		
取組内容	具体的な取組の内容を記載します。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	試行実施 検討	○○実施の拡大 効果の検証		

取組を何年度までにやるのか、また、それまでの取組工程を記載します。

計画達成状況及び達成見込み	前年度までの取組実績と達成状況、本年度の取組状況、次年度以降の取組見込みを記載します。

目　次

Ⅰ　県立中央病院

Ａ　高度・専門・政策医療の提供

１　がん対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０１０１	がん診療センターの充実・強化	がん診療センター	消化器内科・腫瘍内科	1
Ａ０１０２	ロボット支援手術の適応拡大	がん診療センター	外科・呼吸器外科・泌尿器科	1
		特定診療部門	産婦人科	
Ａ０１０３	外科組織の充実と診療の高度化	がん診療センター	外科・肝胆膵外科・乳腺外科	2
Ａ０１０４	婦人科腫瘍診療の高度・専門化	特定診療部門	産婦人科	3
Ａ０１０５	高精度放射線治療の充実・強化	がん診療センター	腫瘍放射線科	3
Ａ０１０６	がんゲノム診療体制の構築	特定診療部門	臨床遺伝科	4
Ａ０１０７	がん治療を受ける患者・家族の充実度の評価	がん診療センター	経営企画室	5
Ａ０１０８	ＳＰＡＲＣＳ（苦痛のスクリーニング）の普及啓発	がん診療センター	緩和医療科	5
Ａ０１０９	緩和治療・緩和ケアの効率的な提供体制の構築	がん診療センター	緩和医療科	6
Ａ０１１０	がん患者のこころのケアの充実	がん診療センター	腫瘍心療科	7
Ａ０１１１	がん診療に係る医療従事者の育成	がん診療センター		7

２　心筋梗塞等の心血管疾患対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０２０１	カテーテル治療等の整備・拡大	循環器センター	循環器内科・心大血管リハビリテーション科	8
Ａ０２０２	心臓血管外科手術の低侵襲化	循環器センター	心臓血管外科・心大血管リハビリテーション科	8

３　認知症を含む脳神経疾患対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０３０１	脳卒中急性期治療の充実	脳神経センター		9
Ａ０３０２	神経血管内治療医の育成	中央診療部門	神経血管内治療部	9
Ａ０３０３	早期認知症診療の充実	脳神経センター	脳神経内科	10

４　糖尿病対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０４０１	職域を超えた糖尿病地域医療連携システムの確立	糖尿病センター	内分泌内科	10

目　次

５　精神疾患対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０５０１	メンタルケアの充実	特定診療部門	メンタルヘルス科	10
Ａ０５０２	心理支援の充実	中央診療部門	臨床心理支援部	11

６　周産期医療対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０６０１	産科医療体制の機能強化	総合周産期母子医療センター	産科	11
Ａ０６０２	新生児医療体制の機能強化	総合周産期母子医療センター	新生児科	12

７　小児医療対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０７０１	医療的ケア児支援体制の構築	総合周産期母子医療センター	成育科	13
Ａ０７０２	小児専門医療の提供体制の強化	特定診療部門	小児科	13

８　救急医療対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０８０１	救急医療の広域連携	救命救急センター	救急部	14
Ａ０８０２	救急医療技術の教育環境の整備	救命救急センター	救急部	14

９　災害医療対策

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ０９０１	災害医療の提供体制の強化	救命救急センター	救急部	14

１０　各種診療体制の強化

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ａ１００１	呼吸器センター構想の推進	がん診療センター	呼吸器内科	15
Ａ１００２	嚥下機能改善手術の推進	がん診療センター	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	15
Ａ１００３	口腔外科診療のレベルアップ	がん診療センター	歯科口腔外科	16
Ａ１００４	形成・再建外科の機能強化	がん診療センター	形成・再建外科	16
Ａ１００５	斜視弱視診療及び網膜疾患の専門的検査・治療の充実	糖尿病センター	眼科	17
Ａ１００６	重症患者の受入の効率化	救命救急センター	集中治療部・高度治療部	17
Ａ１００７	高度かつ効率的な内視鏡診療体制の構築	中央診療部門	内視鏡部	18
Ａ１００８	手術室機能の充実・強化	中央診療部門	手術部	18
Ａ１００９	血液浄化療法室（透析室）の安全強化と災害時の機能強化	中央診療部門	血液浄化療法部	19

目　次

Ｂ　良質で安全な医療サービスの提供

１　医療の質と安全性の向上

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｂ０１０１	持続的に医療の質の向上に取り組む仕組みづくり	「医療の質」総合管理センター		20
Ｂ０１０２	ＩＣＴを活用したクリティカルパスの改善	クリティカルパス委員会（医療情報部）		20
Ｂ０１０３	医療安全管理体制の強化	医療安全管理室		21
Ｂ０１０４	褥瘡対策の充実・強化	糖尿病センター	皮膚科（褥瘡対策委員会）	22
Ｂ０１０５	医療被ばく低減対策の強化	中央診療部門	放射線部	22
Ｂ０１０６	感染症診療機能の強化	感染管理室		23
Ｂ０１０７	医療機器の適正管理の強化	中央診療部門	臨床工学部	24
Ｂ０１０８	安全・安心な食事の提供	中央診療部門	栄養管理部	24
Ｂ０１０９	治験の適正な運営と製造販売後調査（ＰＭＳ）への支援	治験管理室		25

２　健康教育（予防と健康づくり）の推進

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｂ０２０１	健康教育活動の推進	医療連携部・健康推進室		25
Ｂ０２０２	ＨＩＶ予防啓発の推進	がん診療センター	血液内科	26
Ｂ０２０３	健康増進活動の普及啓発	中央診療部門	臨床検査部	26

３　患者サービスの向上

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｂ０３０１	医療相談体制の充実	医療連携部		27
Ｂ０３０２	病院ホスピタリティの向上	運営部	総務課・医事第一課	28

目　次

Ｃ　地域医療支援と医療・介護との連携強化

１　入退院支援

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｃ０１０１	療養支援センターの設置	医療連携部		29

２　地域医療支援

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｃ０２０１	膠原病・リウマチ診療に関する医療連携体制の構築	特定診療部門	リウマチ膠原病内科	29
Ｃ０２０２	運動器疾患の地域連携の強化	特定診療部門	整形外科	30
Ｃ０２０３	地域医療の支援体制の充実	救命救急センター	総合診療部	30
Ｃ０２０４	地域医療を支える読影機能の強化	中央診療部門	放射線部	31
Ｃ０２０５	地域医療機関の医療安全対策の推進	医療安全管理室、感染管理室		31
Ｃ０２０６	地域医療・へき地医療の支援強化	運営部	経営企画室	32
		地域医療支援部		
Ｃ０２０７	あおもりメディカルネットの普及促進	医療連携部		32

３　在宅医療・介護との連携

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｃ０３０１	療養支援検索システム	医療連携部		33
Ｃ０３０２	医療・福祉関連施設との緩和ケア連携強化	がん診療センター	経営企画室	33
Ｃ０３０３	地域包括ケア支援体制の構築	がん診療センター	緩和ケアセンター	34
Ｃ０３０４	ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）の推進	がん診療センター	経営企画室	34
Ｃ０３０５	職域を超えた糖尿病地域医療連携システムの確立（再掲）	糖尿病センター	内分泌内科	35

目　次

Ｄ　良質な人材の確保・育成と専門能力発揮に向けた体制構築

１　医療従事者の確保・育成と看護・コメディカル部門の充実・強化

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｄ０１０１	人材の確保・育成	運営部	総務課	36
Ｄ０１０２	画像診断機能の充実・強化	中央診療部門	放射線部	36
Ｄ０１０３	リハビリテーション組織体制の強化	特定診療部門	リハビリテーション科	37
Ｄ０１０４	臨床検査の技術向上	中央診療部門	臨床検査部	37
Ｄ０１０５	病理診断機能の充実・強化	中央診療部門	病理部	38
Ｄ０１０６	細胞治療に関する幹細胞の管理体制の充実・強化	中央診療部門	輸血･細胞治療部	38
Ｄ０１０７	薬剤業務の機能強化	中央診療部門	薬剤部	39
Ｄ０１０８	栄養管理業務の充実・強化	中央診療部門	栄養管理部	39
Ｄ０１０９	看護体制の強化	看護部		40

２　業務の負担軽減と効率化

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｄ０２０１	職員の業務負担軽減と労務管理	運営部	経営企画室・総務課・医事第一課	40
Ｄ０２０２	ＩＣＴを活用した業務負担軽減	運営部	情報管理課	41
Ｄ０２０３	職員が自発的かつ継続的に業務改善に取り組む仕組みづくり	「医療の質」総合管理センター		41
Ｄ０２０４	多職種連携による移植医療の効率化	がん診療センター	血液内科	42
Ｄ０２０５	臨床検査業務の効率化	中央診療部門	臨床検査部	42
Ｄ０２０６	滅菌業務の集約化	中央診療部門	中央材料部	43
Ｄ０２０７	採血業務の改善	中央診療部門	中央採血部	43
Ｄ０２０８	中央病院とつくしが丘病院の運営業務の一体的処理の拡大	運営部	総務課・経理課・管理課	44
Ｄ０２０９	情報ネットワークシステムの充実・強化	運営部	情報管理課	45

目　次

Ｅ　経営基盤の強化

１　経営力の強化

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｅ０１０１	経営マネジメントの強化	運営部	経営企画室	46
Ｅ０１０２	未収金対策の強化	運営部	医事第一課	46
Ｅ０１０３	収益確保・経費節減による経営基盤の強化	運営部	経営企画室・管理課・医事第一課	47

２　広報の推進

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｅ０２０１	広報・情報発信の充実・強化	運営部	経営企画室	48

３　施設の効率的な管理

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｅ０３０１	公舎等財産の利活用促進	運営部	管理課	48
Ｅ０３０２	施設の効果的・効率的活用の推進	運営部	管理課	49
Ｅ０３０３	施設の省エネ対策の推進	運営部	管理課	49

４　地域医療構想等の推進

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｅ０４０１	地域医療構想等の推進	運営部	経営企画室・地域医療課	50

目　次

Ⅱ　つくしが丘病院

Ｆ　多職種による質の高い入院医療の提供

１　医療従事者の育成

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｆ０１０１	医療スタッフの量・質の充実	つくしが丘病院		51
Ｆ０１０２	専門性の高い医療従事者の育成	つくしが丘病院		51

２　安全・安心な入院医療の提供

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｆ０２０１	医療安全対策の強化	つくしが丘病院		52
Ｆ０２０２	計画的退院支援の強化	つくしが丘病院		52
Ｆ０２０３	多職種チーム医療の推進	つくしが丘病院		53
Ｆ０２０４	精神科救急入院料の算定	つくしが丘病院		53

Ｇ　多職種・施設間連携による外来医療や訪問支援の展開

１　外来・在宅医療サービスの充実・強化

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｇ０１０１	在宅支援の強化	つくしが丘病院		54
Ｇ０１０２	多様な精神疾患患者への対応	つくしが丘病院		55
Ｇ０１０３	患者及びその家族との情報共有の推進	つくしが丘病院		56
Ｇ０１０４	包括的支援の推進	つくしが丘病院		56

Ｈ　健全経営の推進

１　収益確保・費用節減

整理番号	取組方策	診療科・部署名		ページ
Ｈ０１０１	医業収益の確保	つくしが丘病院		57
Ｈ０１０２	費用の節減	つくしが丘病院		57

A　高度・専門・政策医療の提供

整理番号	Ａ０１０１	診療科（部署）名	消化器内科・腫瘍内科（がん診療センター）
取組方策	がん診療センターの充実・強化		
取組内容	がん診療センターにおける安全で質の高いがん治療（薬物療法）を提供するため、機能整備・役割分担等を促進する。 ア　原発不明がん及び希少がん（肉腫等）の治療体制の強化、外来治療センター運用の効率化 イ　キャンサーボードの実施 ウ　支持療法及び化学療法の効率化と促進		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	腫瘍内科医(常勤1名)の確保	腫瘍内科の充実	外来治療センター運用の効率化	irAE対策チームの再整備
	イ	キャンサーボードの実施・対象科の拡大	キャンサーボードの拡大	キャンサーボードの拡大（骨メタキャンサーボードを含む）	
	ウ	支持療法のセット化と冊子の作成準備	冊子の作成・使用		
	ウ	化学療法に関する共通の同意書を作成	院内全科で使用	（同意書の見直し）	

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇腫瘍内科医１名配置 〇薬物療法に係る地域拠点病院との連携体制の構築 〇院内共通の支持療法のセット化と患者用冊子の作成 〇化学療法の同意書の見直し（適応薬剤等） 〇外来治療センターオリエンテーション動画を作成 《2022年度の計画内容》 〇外来治療センター運用の強化・効率化 〇irAE対策チームの再整備

整理番号	Ａ０１０２	診療科（部署）名	外科・呼吸器外科・泌尿器科(がん診療センター) 産婦人科（特定診療部門）
取組方策	ロボット支援手術の適応拡大		
取組内容	ロボット支援下内視鏡手術の保険適用の拡大を踏まえ、ロボット支援による術式を拡大するとともに、関係診療科によるロボット手術支援部門を設立する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ロボット支援手術を行うためのトレーニング受講			
	ロボット支援手術の術式の拡大			
	ロボット手術部門の設立	ロボット支援手術に関する教育の実施		

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇ロボット支援手術を行うためのトレーニング受講 〇手術件数の増加と適応拡大 《2022年度の計画内容》 〇ロボット支援手術を行うためのトレーニング受講 〇手術件数の増加と適応拡大

整理番号	Ａ０１０３	診療科（部署）名	外科・肝胆膵外科・乳腺外科(がん診療センター)
取組方策	外科組織の充実と診療の高度化		
取組内容	がん種ごとの専門性に対応するため、外科診療の高度化と最先端治療を推進する。 ア　食道鏡視下手術の安定化と気縦隔法の導入及び胃腹腔鏡下手術の充実化 イ　大腸がんに対するハイレベル腹腔鏡下手術とバーチャル手術の適応拡大 ウ　肝胆膵がん手術における低侵襲手術の導入拡大と高度技能医取得事業の安定化 エ　乳がん術後再建の安定化と２次再建の積極的導入及び形成外科との強固な連携 オ　消化器がんに対する集学的治療成績の向上～術前化学放射線の応用 カ　遺伝性乳がん診断のカウンセリング体制の拡散と隔がん腫への適応拡大 キ　弘前大学NPO事業との連携による研修医の外科手技の安定取得と充実した研修の提供		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	食道鏡視下手術の症例集積と気縦隔法の導入	→	→	→
	イ	大腸腹腔鏡下手術の８割化とバーチャル機器の導入	→	→	→
	ウ	肝胆膵がんに対する腹腔鏡下手術への適応拡大	→	→	→
	エ	乳がん術後再建例１０例と２次再建の導入	→	→	→
	オ	大腸がん術前化学療法の遠隔成績	→	→	→
	カ	遺伝性乳がん診断のカウンセリング体制の拡散	→	→	→
	キ	腹腔鏡ラボトレーニングの実施	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇大腸腹腔鏡下手術の開腹歴のある症例や超低位前方切除などへの適応拡大 〇肝胆膵がんに対する腹腔鏡下手術を大腸癌肝転移症例などの同時治療症例でも応用 〇形成外科との連携による再建手術実施 〇高度進行大腸癌に対する術前化学療法の遠隔成績について他施設比較による評価 〇弘前大学NPO事業との連携による研修医の外科手技の安定取得と充実した研修の提供 〇肝胆膵がんに対する腹腔鏡下手術の適応拡大（左葉切除など） 《2022年度の計画内容》 〇低侵襲治療の推進と症例集積 〇研修医の更なる技量革命

整理番号	Ａ０１０４	診療科（部署）名	産婦人科（特定診療部門）	
取組方策	婦人科腫瘍診療の高度・専門化			
取組内容	婦人科腫瘍の診断・治療機能を充実するため、婦人科をがん診療センターに編入し、腫瘍専門医を育成する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	婦人科腫瘍専門医(1名)の確保	JGOG（婦人科悪性腫瘍研究機構）の参加施設として登録	がんセンターへの編入	JGOGの臨床試験への参加 →
	婦人科腫瘍学会専門医指定修練施設の認定取得	→	→	→
	腫瘍専門医の育成	→	→	→
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇婦人科腫瘍学会専門医指定修練施設の認定取得 〇JGOGへの参加施設として登録 《2022年度の計画内容》 〇婦人科腫瘍学を専攻する医師の募集 〇がんセンターへの編入 〇JGOGの臨床試験への積極的な参加			

整理番号	Ａ０１０５	診療科（部署）名	腫瘍放射線科（がん診療センター）	
取組方策	高精度放射線治療の充実・強化			
取組内容	放射線治療の精度向上を図るための放射線治療機器の更新や人員体制の強化、臨床研究の充実に取り組む。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	放射線治療機器(Linac)の更新(1台目)	放射線治療機器(Linac)の更新(2台目)		
	常勤医学物理士(1名)の育成(2人目)	医学物理士資格取得	医学物理室の設置（2020年度医学物理士試験の結果次第では延期あるいは断念）	医学物理室設置の検討
	転移性骨腫瘍に対する放射線治療の遡及的解析と今後の研究デザイン作成	データの取得と症例の追跡調査	学会発表（2022年4月発表）	論文化
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇放射線治療機器(Linac)の更新 〇転移性骨腫瘍放射線治療の研究・学会発表 《2022年度の計画内容》 〇新放射線治療機器(Linac)により可能となった治療に関する臨床研究の開始 〇医学物理室設置の検討			

整理番号	Ａ０１０６	診療科（部署）名	臨床遺伝科（特定診療部門）
取組方策	がんゲノム診療体制の構築		
取組内容	がん患者の遺伝子情報に基づく個別化医療を推進するための診療体制を構築する。 ア　がんパネル検査の実施 イ　ゲノム医療に関する人材育成と認知度向上に向けた教育の実施 ウ　ＩＳＯの認定範囲の拡大		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	がんパネル検査の開始 遺伝子検査機器の導入	→	→	県民に向けた医療の還元（臨床研究の実施）
	イ	人材育成 （臨床遺伝専門医） 臨床遺伝専門医取得 がんゲノム医療に関する教育（院内向け）	（検査担当者、認定遺伝カウンセラー） 臨床遺伝専門医取得 がんゲノム医療に関する教育（県民向け）	→ がんゲノム医療に関する教育（県民向け）	→ →
	ウ	ISO 15189の認定範囲拡大に向けた準備（遺伝検査、病理検査）	ISO 15189の認定拡大（病理検査） CAP認定の情報収集	ISO 15189の認定更新 遺伝子検査部門のCAP認定に向けた準備	ISO 15189更新後第１回サーベイランス 遺伝子検査部門のCAP認定取得

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○国立がん研究センター中央病院の連携病院として評価療養を開始、がん遺伝子パネル検査開始 ○肺がんに関するゲノム医療に関する臨床研究の実施 ○臨床専門医資格取得。 ○病理検査部門がISO 15189認定取得（拡大） ○院内研修会、県民公開講座の開催 ○ゲノム医療部ゲノム検査室の設置 ○ISO 15189の認定更新 《2022年度の計画内容》 ○患者に対する臨床研究としてのがんドライバー遺伝子検査等の開始 ○院内研修会、県民公開講座の開催 ○がんゲノム医療コーディネータの育成

整理番号	Ａ０１０７	診療科（部署）名	がん診療センター(経営企画室)
取組方策	がん治療を受ける患者の支援と患者家族の充実度の評価		
取組内容	がん患者のＱＯＬ（生活の質）の低下を防ぐため、がん治療が患者に与える影響の実態調査等を実施し、がん治療を受ける患者・家族の生活の充実度を評価する指標を検討する。		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	脊椎腫瘍患者の治療適応(整形外科・腫瘍放射線科)の実態調査	脊椎腫瘍患者の治療適応(整形外科・腫瘍放射線科)	がん治療患者の指導支援の充実 がん患者指導管理料の算定充実	→ がん看護専門外来の充実
	イ	緩和ケア目的の転医患者、がん診断時の生存期間とがん治療との関連に関する調査に向けた準備	がん企画に事務1名配置 試験的に消化器癌から調査開始	対象疾患拡大、継続調査	→
	ウ	化学療法による味覚障害患者の実態調査と食に関する支援の検討	副作用メモ活用による味覚障害の継続評価 がん化学療法委員会に管理栄養士追加、連携充実加算算定要件に向けて体制準備	副作用メモの活用による味覚障害の評価 連携充実加算算定 管理栄養士による個別指導継続（外来栄養食事指導料算定）	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇がん治療が患者に与える影響の実態調査の実施 〇がん治療を受ける患者・家族の生活の充実度を評価する指標の検討 《2022年度の計画内容》 〇がん看護専門外来の充実 〇管理栄養士による個別指導の充実

整理番号	Ａ０１０８	診療科（部署）名	緩和医療科（がん診療センター）
取組方策	ＳＰＡＲＣＳ（苦痛のスクリーニング）の普及啓発		
取組内容	県民がどこにいても安心・安楽に過ごせる緩和ケアの提供体制を構築するため、当院ががん患者の苦痛のスクリーニングを実施するために開発したＳＰＡＲＣＳを普及・啓発する。 ※SPARCS：Special Project for Awareness and Relief of Cancer Symptoms ア　がん患者の苦痛の実態調査 イ　地域と連携した緩和ケア体制の構築		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	痛みやつらさの実態調査	→	→	→
	イ	地域と痛みとつらさの評価方法の統一	がん診療地域連携推進委員会で協議	→	→
			がん診療地域連携推進委員会で協議	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇がん患者の苦痛のスクリーニングに係る運用実態について調査・分析 〇地域との緩和ケア体制構築について、がん診療地域連携推進委員会で協議 《2022年度の計画内容》 〇がん診療地域連携推進委員会での協議

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ａ０１０９</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">緩和医療科（がん診療センター）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">緩和治療・緩和ケアの効率的な提供体制の構築</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">がん患者・家族のＱＯＬ向上を図るため、骨関連有害事象の予防及び早期の疼痛治療並びに地域の難治症例について事例検討する緩和ケア部門キャンサーボードを行うとともに、症状緩和治療やケアを標準化したポケットマニュアルを作成する。
ア　緩和ケア部門キャンサーボートの実施
イ　緩和ケアポケットマニュアルの作成</td></tr>
<tr><td rowspan="4">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>地域の難治症例に関する遠隔診療支援
（試験運用開始）</td><td>定例開催

症例検討の蓄積を共有</td><td>定例開催

参加施設増(3施設)

緩和治療の標準化</td><td>→</td></tr>
<tr><td rowspan="2">イ</td><td>ポケットマニュアル（緩和ケアマニュアル試作版）作成</td><td>緩和ケアマニュアル試作版の配布</td><td>緩和ケアマニュアル改訂内容の検討</td><td>緩和ケアマニュアル完成版運用</td></tr>
<tr><td>試作版の院内での運用と評価</td><td>実用性の評価、追加項目の検討</td><td>院内および県内の携拠点病院および推進病院の緩和ケアチーム等での利用促進</td><td>拠点病院や推進病院での医療用麻薬や副作用対策の対応状況の変化を調査し、緩和治療の標準化への影響を評価</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇A-PACCの定例開催
〇がんの痛み治療マニュアル2020を作成・県内のがん診療関連施設に配布
《2022年度の計画内容》
〇苦痛の評価方法や、がん疼痛治療などの地域での標準化を推進
〇緩和ケアマニュアル完成版の作成・運用</td></tr>
</table>

整理番号	Ａ０１１０	診療科（部署）名	腫瘍心療科（がん診療センター）
取組方策	がん患者のこころのケアの充実		
取組内容	入院患者のこころのケアの充実を図るため、リエゾンナースを中心とするリエゾンチームによる心理的サポート（回診・面接）を行う。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		リエゾンナース(精神看護専門看護師)を中心とする御用聞き回診の開始 公認心理師による面接に対するリエゾンチーム加算算定	精神科認定看護師と公認心理師による御用聞き回診の継続	→
			→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇精神科認定看護師と公認心理師による御用聞き回診の開始 《2022年度の計画内容》 〇精神科認定看護師と公認心理師による御用聞き回診の継続

整理番号	Ａ０１１１	診療科（部署）名	がん診療センター
取組方策	がん診療に係る医療従事者の育成		
取組内容	都道府県がん診療連携拠点病院としての機能強化及びがん診療の向上のため、計画的にがん相談員やがん登録実務者、各種がん関連医療従事者を育成する。 ア　がん相談員　　がん相談員指導者、両立支援コーディネーターの育成 イ　がん登録　　院内登録実務中級認定者の育成と資格認定更新 ウ　薬剤師　　外来がん治療認定薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師（再掲：薬剤部） エ　看護師　　がん診療に携わる専門・認定看護師の育成（再掲：看護部） オ　リハビリ技師　　がんリハビリテーション研修（再掲：リハビリテーション科） カ　診療放射線技師　　医学物理士（再掲：腫瘍放射線科） キ　医師　　臨床遺伝専門医（再掲：臨床遺伝科）		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	がん専門相談員 基礎研修1.2(5名)	→	→	→
			基礎研修3(2名)	基礎研修(4名)	基礎研修(3名)
		両立支援コーディネーター 基礎研修(2名)	→	→	→
			基礎研修(3名) 応用研修(1名)	基礎研修(1名)	基礎研修(3名) 応用研修(1名)
	イ	院内がん登録実務中級認定者研修(更新1名)	院内がん登録実務中級認定者研修(更新1名)	院内がん登録実務中級認定者研修(1名)	
	ウ	外来がん治療認定薬剤師(1名)		がん薬物療法認定薬剤師(1名)	緩和薬物療法認定薬剤師(1名)
	エ	がん化学療法認定看護師(1名)		がん看護専門看護師(1名)	がん領域の看護専門・認定看護師(1名)
	オ	がんリハ(1チーム)	がんリハ(1チーム)	がんリハ(1チーム)	がんリハ(1チーム)
	カ	医学物理士(1名)	→	→	
	キ	臨床遺伝専門医(1名)	臨床遺伝専門医(1名)		

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇がん相談員やがん登録実務者、各種がん関連医療従事者を育成 《2022年度の計画内容》 〇がん相談員やがん登録実務者、各種がん関連医療従事者を育成

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ａ０２０１</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">循環器内科・心大血管リハビリテーション科
（循環器センター）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">カテーテル治療等の整備・拡大</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">心臓疾患の治療拡大のため、ハイブリッド手術室を活用した治療を推進する。
ア　ハイブリッド手術室を活用したカテーテル治療の実施
イ　腎臓内科医の配置による腎臓疾患の治療の実施</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>ハイブリッド手術室を活用した治療の開始
(CRTDなど)</td><td>大学病院と連携したハイブリッド手術室を活用した治療の開始
(TAVIなど)</td><td colspan="2">→</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>腎臓内科医の配置による腎疾患の受け入れ</td><td colspan="3">→</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇デバイス治療などの積極的な実施
〇TAVIの実施に向けた多職種によるハートチームの立ち上げ
〇TAVIの開始
《2022年度の計画内容》
〇TAVIの治療件数の拡大
〇腎臓専門外来の継続、専門的な検査・治療の開始</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ａ０２０２</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">心臓血管外科・心大血管リハビリテーション科
（循環器センター）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">心臓血管外科手術の低侵襲化</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">高齢患者の負担軽減や現役世代の早期職場復帰を図るため、大動脈疾患に対するステントグラフト治療をはじめ、弁膜症に対する経カテーテル弁置換や末梢血管疾患に対するカテーテル血管形成手術、小切開手術などの低侵襲手術を推進する。
ア　ＴＡＶＲ治療及びＭｉｔｒａＣｌｉｐ治療の実施
イ　小切開手術の実施</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td></td><td>ＴＡＶＲ施設認定取得
ＴＡＶＲ治療開始</td><td>ＭｉｔｒａＣｌｉｐ施設認定取得</td><td>ＭｉｔｒａＣｌｉｐ治療開始</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>小切開手術の導入</td><td>小切開手術の適応拡大</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇小切開手術の開始
〇TAVIの施設認定の取得、治療開始
《2022年度の計画内容》
〇TAVIの治療件数拡大
〇MitraClip導入の検討</td></tr>
</table>

整理番号	Ａ０３０１	診療科（部署）名	脳神経センター
取組方策	脳卒中急性期治療の充実		
取組内容	２４時間体制の脳血管内治療体制の充実を図るため、脳血管内治療専門医（指導医）を育成・招聘するとともに、ＳＣＵ（脳卒中ケアユニット）の治療体制を安定・強化する。 ア　脳血管内治療専門医（指導医）の育成・招聘 イ　他施設との連携体制の構築 ウ　脳卒中急性期リハビリの充実		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	脳血管内治療専門医(指導医)の育成・招聘	→	→	→
	イ	研修会・勉強会の定期的開催と他施設との連携体制の構築	→	→	→
	ウ	急性期リハビリの更なる充実	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇勉強会・定期カンファレンス、学会発表、論文を通じた情報発信と連携体制の構築 〇脳卒中急性期リハビリの充実 〇脳神経血管内治療学会指導医の招聘 《2022年度の計画内容》 〇勉強会・定期カンファレンス、学会発表、論文等を通じた情報発信と連携体制の構築 〇脳神経内科専攻医・脳神経外科専攻医が資格を取得するための環境維持

整理番号	Ａ０３０２	診療科（部署）名	神経血管内治療部（中央診療部門）
取組方策	神経血管内治療医の育成		
取組内容	神経放射線診断学や脳卒中の診断・治療に対する知識が必要となる神経血管内治療医の育成のため、脳神経外科医師、脳神経内科医師、救命救急センター医師を対象としたトレーニングを実施する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	神経血管内治療医の育成	→	→	神経血管内治療医の育成 神経疾患のMRI診断の充実

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇神経血管内治療医の育成 《2022年度の計画内容》 〇神経血管内治療医の育成 〇神経疾患のMRI診断の充実

整理番号	Ａ０３０３	診療科（部署）名	脳神経内科（脳神経センター）	
取組方策	早期認知症診療の充実			
取組内容	認知症の早期診断と早期介入を推進するため、地域の医療機関との患者紹介等の診療連携体制を確立するとともに、認知症ケアチームの体制を強化する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認知症疾患医療センターの認定取得に向けた検討・調整 臨床心理士の市内医療機関への派遣 認知症ケアチームへの精神保健福祉士(1名)の配置検討(再掲)		認知症診療連携パスの構築に向けた検討・調整 認知機能評価とadvance care planningに基づいた医療意思決定への心理カウンセリング導入の検討・調整	認知症診療連携パスの使用開始 認知機能評価とadvance care planningに基づいた医療意思決定ツールの運用
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇認知症ケアチームへの精神保健福祉士の配置 《2022年度の計画内容》 〇認知症ケアチームによる活動の継続 〇ACPに基づいた医療意思決定の書式のひな形を運用			

整理番号	Ａ０４０１	診療科（部署）名	内分泌内科（糖尿病センター）	
取組方策	職域を超えた糖尿病地域医療連携システムの確立			
取組内容	介護の要因（脳血管障害、認知症、フレイルなど）には、糖尿病が深く関わっていることから、介護現場における糖尿病の過小評価による被介護者の臨床転帰の悪化を防ぐため、地域ケアセンター・介護サービスとの職域を超えた人材育成や情報共有などを促進する地域医療連携システムを構築する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	日本糖尿病協会、青森市医師会などへの働きかけ	介護職を対象とした研修会の開催	介護職を対象としたWEBによる研修会の開催	介護職を対象としたWEBによる研修会の開催 研修修了者を対象としたskill up研修会の開催
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇介護職を対象とした研修会開催のための準備委員会の設置と研修会の実施 〇オンライン研修会の実施 《2022年度の計画内容》 〇介護職を対象とした研修会開催のための準備委員会の設置と研修会の実施 〇オンライン研修会の実施			

整理番号	Ａ０５０１	診療科（部署）名	メンタルヘルス科（特定診療部門）	
取組方策	メンタルケアの充実			
取組内容	精神疾患を伴う妊産褥婦及び認知症症例に対するメンタルケアの向上のため、周産期サポートチーム及び認知症ケアチームの体制を強化する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		常勤部長配置	→	→
	精神保健福祉士(2名)の配置検討 (うち1名は臨時職員でも可)			
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇精神保健福祉士の配置検討 〇メンタルヘルス科常勤部長の配置（精神科常勤医師の配置） 《2022年度の計画内容》 〇周産期サポートチーム及び認知症ケアチームの体制強化			

<table>
<tr><td>整理番号</td><td>Ａ０５０２</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">臨床心理支援部（中央診療部門）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="4">心理支援の充実</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="4">認知症やせん妄の患者に対する心理支援体制を充実するため、多職種連携によるサポートチームを立ち上げるとともに、職員の心理負担軽減のための体制を構築する。
ア　認知症・せん妄及び一般患者に対する組織的支援体制の整備と充実
イ　スタッフの心理負担の大きい部署への心理職の配置</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>認知症・せん妄サポートチームの臨床心理支援部内への設置

認知症ケア加算1の算定開始</td><td>認知症・せん妄サポートチーム業務検討委員会の立ち上げ

認知症・せん妄サポートチームにおける心理職の役割の確立</td><td>認知症・せん妄サポートチームへの臨床心理支援部の協力体制の充実</td><td>認知症・せん妄及びその他一般患者に対する心理・福祉支援体制の整備と充実</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>各部署におけるスタッフ自身の心理職による支援のニーズ調査</td><td>ニーズの高いモデル部署における心理職の試験的配置</td><td>1名の心理職増員の検討</td><td>1名の心理職増員の検討</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="4">《2019～2020年度の取組実績》
〇認知症・せん妄サポートチームの設置、認知症ケア加算１の算定開始
〇認知症・せん妄サポートチームの委員会化、せん妄ハイリスク患者ケア加算の算定開始
《2021年度の計画内容》
〇職員健康支援課への業務支援
〇認知症・せん妄及びその他一般患者に対する心理・福祉支援体制の整備と充実</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>整理番号</td><td>Ａ０６０１</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">産科（総合周産期母子医療センター）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="4">産科医療体制の機能強化</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="4">ハイリスク妊産婦に対する高度な周産期医療を提供するため、産科医療スタッフの技術向上など人材育成に取り組むとともに、医療機器の計画的な更新を進める。
ア　医療機器の計画的更新
イ　産科医療スタッフの技術向上
ウ　周産期に関わる医療スタッフの充実・強化</td></tr>
<tr><td rowspan="4">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>医療機器更新計画に基づく更新</td><td colspan="3">→</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>母体救命コース開催</td><td>母体救命コース開催及びインストラクター養成</td><td colspan="2">→</td></tr>
<tr><td>ウ</td><td>新生児蘇生法Ａコース・Ｓコース開催及びインストラクター養成</td><td colspan="3">→</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="4">《2019～2021年度の取組実績》
〇医療機器の計画的更新
〇母体救命コース及び新生児蘇生法Ａコース・Ｓコースの開催
《2022年度の計画内容》
〇医療機器の計画的更新
〇母体救命コース及び新生児蘇生法Ａコース・Ｓコースの開催</td></tr>
</table>

整理番号	Ａ０６０２	診療科（部署）名	新生児科（総合周産期母子医療センター）
取組方策	新生児医療体制の機能強化		
取組内容	ハイリスク新生児の治療管理体制を維持・強化するため、多職種連携体制の強化や医療機器の計画的な更新を進めるとともに、セキュリティ体制を強化する。 ア　医療機器の計画的更新 イ　ＮＩＣＵにおけるセキュリティ等の環境整備 ウ　コメディカルの充実等		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	医療機器更新計画に基づく更新	→	→	→
	イ	セキュリティ体制の強化	感染症に対応する病床の整備	→	→
		医療機器・物品の安全管理	→	→	→
	ウ	看護師の専門性の向上	→	→	→
		臨床検査技師、臨床工学士、管理栄養士、臨床心理士、薬剤師による業務支援	母乳育児支援基礎セミナー、IBCLC研修、新生児集中ケア認定看護師研修への参加 →	→	→
		入退院支援コーディネーター(周産期サポート兼務)の配置検討	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇保育器など医療機器の一部を更新 〇NICU漏電対策、GCU無停電電源の確保、入室管理、監視カメラの設置等のセキュリティ体制強化 《2022年度の計画内容》 〇医療機器の更新 〇感染症室の整備

整理番号	Ａ０７０１	診療科（部署）名	成育科（総合周産期母子医療センター）
取組方策	医療的ケア児支援体制の構築		
取組内容	ＮＩＣＵ退院後も引き続き医療的ケアが必要な障害児（医療的ケア児）に対して適切な医療的支援を行うため、成育科の体制を強化するとともに、県や地域の医療・福祉機関との連携・支援体制を検討する。 ア　成育科の体制強化 イ　あすなろ療育福祉センターに対するバックアップ支援 ウ　医療的ケア児支援体制の検討 エ　医療的ケア児支援センターの設置		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア		成育科医師(1名)の確保		
	イ		あすなろ療育福祉センターへの医師派遣	→	→
	ウ	医療的ケア児支援体制の検討	→	→	→
	ウ	県の医療的ケア児支援体制検討部会への参加	→	→	→
	エ			医療的ケア児支援センター設置準備	医療的ケア児支援センター開設

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 ○医療的ケア児支援体制検討部会への参加 ○成育科医師の確保 ○あすなろ療育福祉センターへの医師派遣（週３日） ○県事業の医療的ケア児コンサルテーションチームへの参加 ○小児在宅支援センターの設置 《2022年度の計画内容》 ○小児在宅支援センターでの業務対応

整理番号	Ａ０７０２	診療科（部署）名	小児科（特定診療部門）
取組方策	小児専門医療の提供体制の強化		
取組内容	地域の医療機関では対応が困難な小児患者に対し、高度な小児専門医療を提供するため、小児科領域の専門医を確保する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	小児神経をはじめとする小児科領域専門医の確保	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 ○専門医の確保・育成 ○専門外来として神経外来、内分泌外来、腎・膠原病外来を実施 ○発達障害の親子に対するペアレント・トレーニングの実施 《2022年度の計画内容》 ○専門医の確保・育成 ○神経外来、内分泌外来、腎・膠原病外来の継続 ○発達障害の親子に対するペアレント・トレーニングの継続

整理番号	Ａ０８０１	診療科（部署）名	救急部（救命救急センター）
取組方策	救急医療の広域連携		
取組内容	県内の救急医療体制を強化するため、救命専門医研修プログラムにおける研修医療機関が連携して救急医を派遣する体制を構築するとともに、救急医療の担い手確保に向けた広域研修プログラムとして確立する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	連絡会議の開催	医師のローテート開始	→	→
	※救急医療体制が脆弱な津軽・西北五地域を対象として実施	広域プログラムの宣伝	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇弘前大学と連携し、つがる総合病院に毎週交互に救急医を派遣 〇症例検討会や会議等を通じて情報共有や連携を強化 《2022年度の計画内容》 〇弘前大学と連携し、つがる総合病院に救急医を派遣 〇症例検討会や会議等を通じて情報共有や連携を強化

整理番号	Ａ０８０２	診療科（部署）名	救急部（救命救急センター）
取組方策	救急医療技術の教育環境の整備		
取組内容	研修医や新人看護師などの医療技術の向上を図るため、中央病院が保有する研修機材を有効活用し、スキルズラボなどの教育環境を整備する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	スキルズラボの設置	スキルズラボを活用した研修の実施	→	→
	研修計画の作成			

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇職員の医療技術の向上を図るための教育・研修の実施 〇研修医を対象に緊急気道確保や人工呼吸器初期設定のシュミレーションを実施 《2022年度の計画内容》 〇全職員を対象としたBLS研修の実施 〇臨床研修医を対象としたALS、JPTEC研修の実施

整理番号	Ａ０９０１	診療科（部署）名	救急部（救命救急センター）
取組方策	災害医療の提供体制の強化		
取組内容	基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として、災害発生時の医療提供体制を強化するとともに、災害発生時に迅速に対応できるように訓練や研修等を実施する。 ア　大規模災害の発生を想定した研修・訓練の実施 イ　原子力災害発生時における被ばく傷病者の受入体制の強化		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	被災地支援及び当院ＢＣＰに基づく研修・訓練の実施	→	→	→
	イ	原子力災害発生時の専用除染設備の整備 原子力医療派遣チーム員の育成	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇ＢＣＰに基づく平日日中を想定した電子カルテ運用下での訓練を実施 〇放射線技師のDMAT隊員研修参加 《2022年度の計画内容》 〇当院ＢＣＰに基づく研修・訓練の実施 〇原子力医療派遣チーム員の育成

整理番号	Ａ１００１	診療科（部署）名	呼吸器内科（がん診療センター）
取組方策	呼吸器センター構想の推進		
取組内容	肺がん、間質性肺炎、増加する慢性閉塞性肺疾患、ぜん息などのアレルギー疾患、重症肺炎などの重症呼吸器疾患などの患者の増加に対応するため、呼吸器内科、呼吸器外科、呼吸器内視鏡部門及び救急部門が円滑に連携するための体制を構築する。 ア　呼吸器外来の拡充 イ　呼吸器内視鏡システムの拡充 ウ　重症呼吸器疾患の受入体制の構築		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	専門外来(ぜん息、在宅酸素療法)の開設	→	→	→
	イ	呼吸器内視鏡検査の拡充(週2回から週3回)	→	→	→
	ウ	呼吸不全を伴う重症呼吸器疾患の受入体制の構築	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇呼吸器外来、呼吸器内視鏡検査の拡充 〇呼吸不全を伴う重症呼吸器疾患の受入体制の構築 《2022年度の計画内容》 〇呼吸器外来、呼吸器内視鏡検査の拡充 〇呼吸不全を伴う重症呼吸器疾患の受入体制の構築

整理番号	Ａ１００２	診療科（部署）名	耳鼻咽喉科･頭頸部外科（がん診療センター）
取組方策	嚥下機能改善手術の推進		
取組内容	高齢化の推進に伴い増加している嚥下障害の改善を推進するため、嚥下障害患者を診療する地域の医療機関に対して、中央病院が持つ嚥下機能改善手術に関する情報を提供し、地域の医療機関との連携を強化する。 ア　嚥下障害患者を診療する地域の医療機関を対象とした嚥下機能改善手術の啓発 イ　地域の医療機関との連携体制の構築 ウ　嚥下機能改善手術の推進		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	嚥下機能改善手術の第一人者による講演会の開催	→	→	→
	イ	地域の医療機関との定期的なミーティングの開催	→	→	→
	ウ	嚥下機能改善手術の実施	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇講演会及び定例ミーティングの開催 〇嚥下機能改善手術の推進 《2022年度の計画内容》 〇講演会及び定例ミーティングの開催 〇嚥下機能改善手術の推進

整理番号	Ａ１００３	診療科（部署）名	歯科口腔外科（がん診療センター）
取組方策	口腔外科診療のレベルアップ		
取組内容	日本口腔外科学会の認定研修施設として、口腔外科疾患の診療および周術期口腔機能管理などの中心的役割を担うため、関連医療機関との連携を強化し、患者の確保と口腔外科診療のレベルアップを図る。なお、外来、病床利用率、手術件数の増加も図りたい。 ①　地域連携、歯科医師会への当科の取り組みの啓発 ②　関連医療機関との連携体制の強化、病病連携、病診連携 ③　口腔外科診療の実績増加、認定医、専門医の育成		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ア	市歯科医師会、大学同窓会における講演、学会発表、論文投稿	歯科医師会、大学同窓会における講演、学会発表、論文発表	歯科医師会、大学同窓会における講演、学会発表	歯科医師会、大学同窓会における講演、学会発表
イ	岩手医大、弘前大学、むつ総合病院、鰺ヶ沢病院との連携強化	岩手医大、弘前大学、むつ総合病院、鰺ヶ沢病院との連携強化	関連病院との連携を強化し、岩手医大から常勤医師の派遣を図る	岩手医大、弘前大学、むつ総合病院、鰺ヶ沢病院との連携強化
ウ	口腔外科診療の実績増加、認定医の育成	口腔外科診療の実績増加、認定医の認定	口腔外科診療の実績増加、再生医療の準備	口腔外科の実績増加,専門医育成,再生医療実践

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇青森市歯科医師会、大学同窓会青森市部会にて講演。学会発表、論文投稿。 〇岩手医大、弘前大学、むつ総合病院、鰺ヶ沢病院との連携強化として、患者紹介、人事交流を推進。 〇口腔癌、再建、骨増生、インプラント症例の集積が見られた。 〇常勤医師（口腔外科認定医）の配置。 《2022年度の計画内容》 〇再生医療を併用する骨増生の申請、厚労省からの認定を受ける。 〇口腔外科、インプラント治療専門医の育成、日本顎顔面インプラント学会研修施設に認定。

整理番号	Ａ１００４	診療科（部署）名	形成･再建外科（がん診療センター）
取組方策	形成・再建外科の機能強化		
取組内容	患者ＱＯＬの向上のため、各診療科と連携し、患者ニーズに応じた形成外科手術を推進するとともに、形成外科医の確保・育成を図るため、形成外科学会の教育関連施設及び認定施設の認定を取得する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	形成外科学会教育関連施設の認定取得 （平成30年度までに） 入院手術又は全麻手術80例/年			形成外科学会教育関連施設の認定取得 入院手術又は全麻手術150例/年

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇手術件数2018年度69件、2019年度122件、2020年140件、2021年156件達成 《2022年度の計画内容》 〇前年度以上の手術件数

整理番号	Ａ１００５	診療科（部署）名	眼科（糖尿病センター）
取組方策	斜視弱視診療及び網膜疾患の専門的検査・治療の充実		
取組内容	斜視弱視診療の充実を図るため、診療に加え視能訓練を実施するとともに、視能訓練士増員による検査態勢の充実により、より専門的な検査・治療体制を確立する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	斜視弱視患者に対する視能訓練実施について検討	視能訓練実施	→	→
		視能訓練士の技術・検査精度の向上		
	網膜疾患に対するより専門的な検査治療体勢の確立			

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇視能訓練士増員による検査体制の実施 《2022年度の計画内容》 〇視能訓練士の技術・検査制度の向上

整理番号	Ａ１００６	診療科（部署）名	集中治療部・高度治療部（救命救急センター）
取組方策	重症患者の受入の効率化		
取組内容	重症患者に対して効率的かつ集中的な治療を行うため、ＩＣＵ（集中治療室）をより有効に活用する方法を検討するとともに、ＨＣＵ（高度治療室）の必要性について検討する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ＩＣＵ利用促進の検討及び対策の実施			→
			受け入れ適応患者の再検討	
	ＨＣＵの必要性の検討			→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇ＩＣＵ利用促進及びＨＣＵの必要性の検討 〇重症系電子カルテの導入 《2022年度の計画内容》 〇ＩＣＵ利用促進及びＨＣＵの必要性の検討 〇重症系電子カルテの運用促進

整理番号	Ａ１００７	診療科（部署）名	内視鏡部（中央診療部門）	
取組方策	高度かつ効率的な内視鏡診療体制の構築			
取組内容	内視鏡診療の件数増加や緊急内視鏡に対応するため、関連する診療科と連携を図りながら、診療体制の充実に取り組む。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	医療事務作業補助者(1名)の配置検討 内視鏡設備の計画的整備	看護師(2名)の配置検討 →	→	→
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇内視鏡設備の計画的整備 〇看護師の増員検討、医師事務作業補助者の配置による業務効率化、患者滞在時間の短縮等の実施 〇医師事務作業補助者配置による業務効率化 《2022年度の計画内容》 〇内視鏡設備の計画的整備 〇看護師の増員検討、患者滞在時間の短縮等の実施、看護師の内視鏡技師資格取得の促進			

整理番号	Ａ１００８	診療科（部署）名	手術部（中央診療部門）	
取組方策	手術室機能の充実・強化			
取組内容	県全域を対象とした高度で専門的な手術医療に対応するため、全身麻酔枠の拡大に取り組むとともに、手術関連機器の適正管理に向けた体制を強化する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	全身麻酔枠の拡大 (麻酔科応援医師確保) 臨床工学技士の手術室配置	→ (麻酔科応援医師確保) →	→ (麻酔科常勤医師確保) →	→ (麻酔科常勤医師確保) →
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇麻酔科応援医師の確保 《2022年度の計画内容》 〇麻酔科常勤医師の確保 〇看護師及び臨床工学技士の配置検討			

整理番号	Ａ１００９	診療科（部署）名	血液浄化療法部（中央診療部門）
取組方策	血液浄化療法室（透析室）の安全強化と災害時の機能強化		
取組内容	安全な透析環境を構築するため、スタッフ教育を充実するとともに、災害発生時の透析機能を維持するため、透析室の機械・設備の免震化などの対策や災害発生時の透析患者受け入れに係る地域の医療機関（透析クリニック）との連携体制（役割分担）の構築に取り組む。 ア　看護師及び臨床工学技士の教育環境の整備 イ　災害発生時の医療機関（透析クリニック）との連携体制構築 ウ　透析関係設備の免震化対策 エ　新型コロナウイルス感染症流行期における安全な透析環境の整備		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	看護師、臨床工学技士の透析関係のセミナーや学会への派遣	→	→	→
	イ	東青地域における透析災害情報ネットワークの構築とEMISの啓蒙活動	東青地域以外における透析災害情報ネットワークの構築とEMISの啓蒙活動。新型コロナの地域内の体制構築	→	→
	ウ	透析室への災害時優先電話の設置	RO装置への免震ダンパーの設置。RO装置更新。		
	エ			新型コロナウイルス感染症患者を自施設で透析できるように感染対策等について巡回指導	

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇透析室スタッフへの教育、電子カルテでの情報の明確化、ICUとの連携等の環境整備 〇関係医療機関との災害時透析の課題に関する情報共有 〇診療所を含めた全透析施設をEMISに登録 〇機器更新による透析関係設備の免震対策の実施 〇新型コロナウイルス感染症患者への透析対応 《2022年度の計画内容》 〇災害発生時等の対応検討 〇職員への情報共有システムの教育

Ｂ　良質で安全な医療サービスの提供

整理番号	Ｂ０１０１	診療科（部署）名	「医療の質」総合管理センター
取組方策	持続的に医療の質の向上に取り組む仕組みづくり		
取組内容	現場との連携体制の整備など、自律的かつ持続的に医療の質向上に取り組む組織体制や仕組みを整備する。		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	臨床指標（ＱＩ）の活用	→	→	→
	イ	質改善（ＱＣ）活動の支援	→	→	→
	ウ	医療の質に関する自主点検の実施	→	→	→
	エ	満足度調査の実施	→	→	→
	オ	リンクスタッフの組織化	→	現場との連携体制の整備と周知	→
	カ	リンクスタッフによる活用強化と支援	→	現場との連携体制の活用と安定化	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇教育研修適正化、入院支援セット検討、新規機材導入過程適正化の質改善活動を開始 〇多職種協働による新採用者向け研修のほか専門教育担当者向けセミナーを実施 〇病院機能評価の審査結果に対する改善状況の確認 〇患者満足度調査結果に基づいた外来患者待ち時間対策の実施 《2022年度の計画内容》 〇現場との連携体制の整備と周知 〇現場との連携体制の活用と安定化

整理番号	Ｂ０１０２	診療科（部署）名	クリティカルパス委員会（医療情報部）
取組方策	ＩＣＴを活用したクリティカルパスの改善		
取組内容	入院中における検査・手術・リハビリなどの予定を示した入院診療計画書（クリティカルパス）をより利用しやすいものに改善するため、ＩＣＴを活用した分析手法を確立する。 ア　分析手法の確立と分析に基づく改善 イ　分析体制の強化		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	医療用パスの再整備	→	→	→
	ア	パス分析手法の確立	→	新たな分析手法に基づくパスの改善	→
	イ	専門家（院内パスコーディネーター）の育成	→	→	→
	イ	患者用パスのＩＣＴ化	パス医療における患者ニーズへの対応	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇院内パスコーディネーターの育成 〇医療者用パスの精度向上 〇ICTベースの患者用パスの具体化 〇集計管理機能を用いて臨床でのアウトカム評価等の支援を開始 〇患者説明について整理するプロジェクトの立ち上げ 《2022年度の計画内容》 〇パスの精度向上 〇ICTベースの患者用パスの利用開始

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ｂ０１０３</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">医療安全管理室</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">医療安全管理体制の強化</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">院内で発生しているインシデント等に適切に対応するため、医療安全管理室による分析・指導体制や院内の職員を対象とした医療安全に関する研修等を強化する。
ア　インシデント等の分析・指導の強化
イ　医療安全管理室の人材育成、組織強化
ウ　リスクマネージャーの育成と院内の職員を対象とした研修内容の見直し</td></tr>
<tr><td rowspan="4">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>インシデント報告の推進と医療安全管理室の分析力向上

院内ラウンドの強化とカンファレンスへの参加</td><td>→

インシデント等の課題抽出と要因分析</td><td>インシデント及びアクシデント、合併症などの報告の推進
医療安全管理室の分析力向上、現場への指導
医療安全管理室の分析力向上、現場への指導
医療安全管理室の分析力向上、現場への指導</td><td>インシデント及びアクシデント、合併症などの報告の活用</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>医療安全管理室職員の計画的な人員配置と育成

医療事故や予期しない死亡に対応する人材の育成</td><td>→</td><td>医療安全管理室職員として専任薬剤師及び臨床工学技士、事務員の正式な発令
医療事故や予期しない死亡事象の組織的対応を構築する</td><td>迅速急変対応システムの構築及び人材育成
医療事故当事者の組織的対応の構築</td></tr>
<tr><td>ウ</td><td>リスクマネージャーの育成（病棟看護師長など部署長を対象）
全職員対象の研修内容及び方法の見直し（研修機材の活用）</td><td>→
→</td><td>オンライン、eラーニングの活用</td><td>→
→</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇定期ラウンド等による先手手法のセーフティーマネジメントの実施
〇医療安全管理者（専任）として薬剤師を配置
〇多職種連携オリエンテーション資料を活用したリスクマネージャーの人材育成
〇薬剤疑義照会についてテンプレート化し、業務軽減・精度が向上
《2022年度の計画内容》
〇インシデント及びアクシデント、合併症などの報告の活用
〇迅速急変対応システムの構築及び人材育成、医療事故当事者の組織的対応の構築</td></tr>
</table>

整理番号	Ｂ０１０４	診療科（部署）名	皮膚科（糖尿病センター） 褥瘡対策委員会
取組方策	褥瘡対策の充実・強化		
取組内容	入院患者の褥瘡の発生を防ぐため、多職種連携による褥瘡対策を検討し、急性期から慢性期までのあらゆる褥瘡ケアのニーズに対応できる質の高いケアを提供する。 ア　褥瘡ケア質向上 イ　皮膚・排泄ケア認定看護師の育成（1名→3名体制）		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	褥瘡ケア質向上	→	→	→
	ア	体圧分散寝具(ウレタンマットレス、除圧クッション)の整備	→	→	→
	イ	皮膚・排泄ケア認定看護師の育成	→	→	→
	イ	皮膚・排泄ケア認定看護師研修課程受験	病棟専任配置 創傷管理特定行為研修受講	専従看護師2名体制 皮膚・排泄ケア認定看護師研修課程受験 特定行為の推進	皮膚・排泄ケア認定看護師研修課程受験 特定行為推進のための基盤づくり

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇皮膚・排泄ケア認定看護師研修課程1名合格 〇体圧分散寝具（ウレタンマットレス、陰圧クッション）の購入・配布 〇皮膚・排泄ケア認定看護師2人体制 《2022年度の計画内容》 〇皮膚・排泄ケア認定看護師研修課程の受験 〇特定行為推進のための基盤づくり

整理番号	Ｂ０１０５	診療科（部署）名	放射線部（中央診療部門）
取組方策	医療被ばく低減対策の強化		
取組内容	放射線診療等における医療被ばくを低減するため、被ばく管理システムの構築など体制を強化する。		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	被ばく管理システムの構築	医療被ばく管理システム運用開始		→
	イ		従事者被ばく管理体制強化	目の水晶体被ばく測定開始	→
	ウ		診療用放射線関連機器安全管理体制の確立	診療用放射線関連機器安全管理被ばく低減のための人員強化（診療放射線技師２名増員）	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇医療被ばく管理システムの運用開始 〇電離放射線障害防止記録への対応検討 《2022年度の計画内容》 〇医療被ばくの最適化、低減の推進を推進するための情報収集及び院内啓蒙活動

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ｂ０１０６</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">感染管理室</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">感染症診療機能の強化</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">第一種感染症指定医療機関として、質の高い感染症診療の実践と地域の感染症診療のボトムアップのため、感染症専門医の育成と感染症診療支援科（仮）の設置により、感染症診療を強化する。
ア　第一種感染症病床患者の受入・診療体制の確立及び地域と連携し新興感染症の蔓延を予防する
イ　ASTによる地域の抗菌薬適正使用推進を支援する</td></tr>
<tr><td rowspan="5">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>第一種感染症病床患者について、他院の状況を参考に、受入体制及び診療体制の見直し並びにマニュアル変更</td><td>運用の確認</td><td>新型コロナウイルス感染症クラスターの発生を予防する</td><td>感染防止技術の標準化</td></tr>
<tr><td rowspan="3">イ</td><td>感染症専門医の育成</td><td>感染症専門医資格取得
感染制御認定臨床微生物検査技師資格取得</td><td>感染症専門医後進育成
感染制御認定薬剤師・感染管理認定看護師資格取得支援</td><td>感染症専門医資格取得支援
感染制御認定薬剤師資格取得試験支援
感染管理認定看護師資格取得予定者の活動支援</td></tr>
<tr><td>感染症診療支援室(仮)新設のための情報収集</td><td>感染症診療支援室(仮)新設準備</td><td>感染症診療支援室（仮）新設準備</td><td rowspan="2">組織横断的な活動の強化（リンクスタッフ連絡会の再構築）
ASTによる連携医療機関への適正使用の推進</td></tr>
<tr><td>感染症診断の精度向上および迅速化</td><td colspan="2">→</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇第一種感染症病床患者受入体制・診療体制について、マニュアルを見直し院内訓練を実施
〇感染症専門医資格取得
〇新型コロナウイルス感染症のクラスター発生予防のため、感染対策の現状評価と対策強化を支援
〇抗菌化学療法認定薬剤師の資格取得
《2022年度の計画内容》
〇感染防止技術の標準化
〇組織横断的な活動の強化（リンクスタッフ連絡会の再構築）
〇ASTによる連携医療機関への適正使用の推進</td></tr>
</table>

整理番号	Ｂ０１０７	診療科（部署）名	臨床工学部（中央診療部門）
取組方策	医療機器の適正管理の強化		
取組内容	医療機器の安全確保と効率的な運用のため、臨床工学部の組織体制を維持・強化するとともに、点検治具を用いた医療機器の点検及び医療機器の適正使用に向けた研修会を行う。 ア　医療機器の管理体制の強化 イ　医療機器の保守点検作業の効率化 ウ　医療機器の適正使用に向けた研修会の開催		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	臨床工学技士の増員（1名欠員補充） 臨床工学技士の専門性向上に向けた研修会への参加	→	→	→
	イ	点検治具を用いた機器点検の実施	→	電気メス点検開始 →	→
	ウ	院内職員向けの研修会の開催	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇新採用看護師に対する医療機器取扱い研修等の院内研修会の実施 〇臨床工学技士の人員確保 《2022年度の計画内容》 〇電気メスの点検手段等の検討 〇新採用看護師に対する医療機器取扱い研修等の院内研修会の実施

整理番号	Ｂ０１０８	診療科（部署）名	栄養管理部（中央診療部門）
取組方策	安全・安心な食事の提供		
取組内容	安全・安心な食事の提供を継続するため、衛生管理の徹底を中心に業務手順、人員配置、作業動線、機器配置の見直しなど給食提供のあり方を検討する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	部内及び作業チームによる検討	課題に食品ロス削減の取り組みを追加	課題にクックチルシステム一部導入と下膳カートの運用を追加	下膳カートの適切な運用
	衛生管理、安全対策に関する研修会の開催	誤配膳防止の研修会開催 →	→	→
	先進施設・事例や最新機器等の視察・見学	社会情勢に鑑み中止 →	社会情勢に鑑み中止 →	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇厨房等の業務エリアの補修や環境整備等を実施 〇ブラストチラー設置による調理済み料理の温度管理の徹底 〇食品ロス削減の一部達成 《2022年度の計画内容》 〇下膳カートの適切な運用

整理番号	Ｂ０１０９	診療科（部署）名	治験管理室
取組方策	治験の適正な運営と製造販売後調査（ＰＭＳ）への支援		
取組内容	治験の質の向上と円滑な治験の実施のため、治験管理体制を強化するとともに、製造販売後調査（ＰＭＳ）の適正実施に向け、契約処理等による支援を行う。 ア　治験実施の支援 イ　治験管理室の機能強化 ウ　治験業務の質の向上 エ　治験に関する普及啓発活動 オ　製造販売後調査（ＰＭＳ）の契約・経費処理支援		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	実施件数(25件以上/年) 目標収益(1億円以上) 実施率(75%以上)	→	→	実施症例：13例 （実施率：80%）
	イ	ＣＲＣ配置検討(1名) 薬剤師配置検討 (0.5名)	ＣＲＣ配置検討(1名)	ＣＲＣ配置検討(1名)	治験受託件数等を考慮して増員を検討する
	ウ	機器(治験薬保温庫、冷蔵庫等)の更新 治験業務の効率化	→	→	→
	エ	治験・ＣＲＣ業務の普及啓発活動(研修会の企画)	→	→	→
	オ	製造販売後調査(ＰＭＳ)の契約・経費処理に対する支援	→	→	→
計画達成状況及び達成見込み		《2019～2021年度の取組実績》 〇治験・ＣＲＣ業務の普及啓発活動として、広報活動や院内研修会を実施 〇治験実施診療科の拡充のため、新人医師や関連する病棟で研修会を実施 〇治験業務の効率化として、治験審査委員会のリモート開催に向けた手順書改訂、医師の負担軽減のため被験者診察時のＣＲＣ介入方法の統一化、治験審査委員会審議資料の電子化等を実施 〇製造販売後調査（PMS）への支援継続 《2022年度の計画内容》 〇治験・ＣＲＣ業務の普及啓発活動として、広報活動や院内研修会を実施 〇治験実施診療科の拡充 〇治験業務の効率化、院内機器の精度管理の徹底 〇製造販売後調査（PMS）への支援継続			

整理番号	Ｂ０２０１	診療科（部署）名	医療連携部 健康推進室
取組方策	健康教育活動の推進		
取組内容	がん・生活習慣病などの予防を促進するため、中央病院で実施している小学校、中学校、高等学校の児童生徒に対する健康教育活動を集約し、関係機関（県、市町村、教育委員会、各学校等）との協働による取組を推進する。		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	学校教育事務の集約 (窓口の設置)	がん教育の実施（小・中・高等学校） 教員向けの研修の実施		
	イ		関係機関によるがん教育のあり方についての協議に参画	→	→
	ウ	メディコトリムの推進	→	→	→
計画達成状況及び達成見込み		《2019～2021年度の取組実績》 〇がん教育のあり方に関する協議、学校がん教育コンテンツの作成への参画、がん教育の実施 〇メディコトリムや各種運動教室を実施 《2022年度の計画内容》 〇県教育庁からの依頼に基づき、がん教育推進に協力 〇新型コロナウイルス感染症流行下でも実施可能なメディコトリムや各種運動指導の推進			

整理番号	Ｂ０２０２	診療科（部署）名	血液内科（がん診療センター）	
取組方策	ＨＩＶ予防啓発の推進			
取組内容	ＨＩＶの予防啓発のため、県健康福祉部及び教育委員会等と連携し、高校生を対象とした啓発活動を推進する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	県立高校での予防啓発	県立高校での予防啓発 私立高校への拡充 特別支援学校への拡充	県立高校での予防啓発 私立高校への拡充 特別支援学校への拡充 保健所におけるエイズ相談・検査の充実	評価・検討
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇県立学校での予防啓発活動 〇私立学校、特別支援学校での予防啓発活動 《2022年度の計画内容》 〇私立学校、特別支援学校での予防型啓発活動の拡充 〇予防啓発活動の評価・検討			

整理番号	Ｂ０２０３	診療科（部署）名	臨床検査部（中央診療部門）	
取組方策	健康増進活動の普及啓発			
取組内容	中央病院が持つ医療資源（臨床検査機器や検査技能等）を有効活用し、県民の健康増進活動等の促進に向けた普及啓発（体験セミナー）を行う。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	啓発活動の実施	→	→	→
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇高校生向け臨床検査体験セミナーを開催 〇県民公開講座「検査と健康を結ぶ～自分に合った健康管理を探す～」を開催 〇県民公開講座「新型コロナ感染症について」、「遺伝子検査について」をYoutubeにて期間限定配信 《2022年度の計画内容》 〇県民公開講座を開催 〇臨床検査に関する高校生向けコンテンツの企画作成 〇集合研修とコンテンツ作成について情報収集・実現			

整理番号	Ｂ０３０１	診療科（部署）名	医療連携部
取組方策	医療相談体制の充実		
取組内容	がん患者・家族に対する相談体制を充実するため、がん相談支援センターにおける相談事例の広報・周知などによる利用促進に取り組むとともに、がん患者・経験者等による相談支援（ピアサポート）の推進を図る。 ア　がん相談支援センターの利用促進 イ　がん患者・経験者等による相談支援（ピアサポート）の推進 難病医療情報データを活用し難病患者の分布や医療提供体制の状況を可視化し、難病医療ネットワークの体制整備への活用方法を検討する。また、難病患者・家族に対する相談体制の充実を目的に、ピアサポートの場を開設する。 ウ　難病医療情報データの活用方法の検討 エ　難病患者・家族のピアサポート体制の整備 がん・難病以外の医療相談体制を検討し、４疾病５事業に関わる医療相談体制を構築する。 オ　４疾病５事業の医療相談体制の整備		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	がん相談支援センターの相談アクセス方法の広報周知	がん相談記録の相談事例集の作成	がん専門相談員(専従非常勤1名)の配置検討 相談事例集の作成、県内医療機関への配布、がん相談支援センターホームページで公開	がん診療連携協議会相談支援部会で報告し、がん相談支援センターのアクセシビリティについて提案
	イ		認定がん医療ネットワークナビゲーター研修受講(ピア・サポーター3名、がん専門相談員3名)	認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター研修(がん専門相談員2名) ピアサポート活動内容の検討	ピアサポート活動の実践
	ウ		難病医療情報データ活用による県内難病患者、医療機関分布の可視化、可視化したデータの活用方法の検討	各協力病院等（難病診療分野別拠点病院、難病医療協力病院、保健所等）と可視化したデータの活用方法の検討	難病医療情報データ活用の有用性の検討
	エ		難病サロン（ピアサポート）開催方法の検討	難病相談支援センターでのピアサロンに参加し企画・開催方法の知識の習得	難病サロンの試験開催、効果の評価
	オ		がん・難病以外の医療相談実績及び内容の確認	がん・難病以外の医療相談体制の検討	４疾病５事業に関わる相談対応のための人員配置

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇がん相談支援センター紹介カード及び青森県がん療養冊子の配布による広報 〇難病サロン（ピアサポート）開催方法の検討 〇療養支援システム「どこさねっと」で難病対応医療機関データを検索できるよう調整 〇各診療科外来及び院内の相談支援に関するリソースの整理 《2022年度の計画内容》 〇相談事例集の電子化、アクセシビリティの評価 〇相談支援部門の業務明確化・他部門との連携強化による相談支援の充実

整理番号	Ｂ０３０２	診療科（部署）名	総務課・医事第一課（運営部）
取組方策	病院ホスピタリティの向上		
取組内容	患者満足度の向上を図るため、病院ボランティア活動、院内イベント活動の充実や職員の接遇向上など、充実した療養環境や質の高いサービスを提供する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ボランティアの有効活用	→	→	→
	院内イベント活動の充実	→	→	→
	受付職員等を対象とした接遇研修及びトラブル対応研修の実施	→	→	→
	患者ニーズの把握及び相談体制の充実	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇接遇研修及びトラブル対応等研修の実施 〇ボランティアとの意見交換会の実施 〇患者ニーズ把握のためのふれあいBOX設置箇所の増設（３ヶ所） 《2022年度の計画内容》 〇接遇研修及びトラブル対応等研修の実施 〇ボランティアを配置している患者図書室の整備（書籍の入替、運用見直し等） 〇ふれあいBOXへの投書等からの患者ニーズの把握と改善活動の継続

C　地域医療支援と医療・介護との連携強化

整理番号	C０１０１	診療科（部署）名	医療連携部
取組方策	療養支援センターの設置		
取組内容	入院治療を受ける患者・家族が不安なく入院生活を送り、退院後も安心して療養できる環境を提供するため、「療養支援センター」を設置し、療養支援看護師（担当看護師）による、入院前から退院後の療養生活までを見据えた、適切なタイミングでの退院や地域への橋渡しのマネジメントを行う。 また、療養支援看護師による各種説明、同意取得等の業務や患者情報の集約と共有により、入院に関連した診療業務や看護業務の負担軽減を図る。		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	療養と連携センター開設 予定入院患者に対し入院前の情報収集を開始 退院支援との連携調整を開始 段階的に対象診療科を拡大	業務内容の拡大 予定外入院患者への対応検討（療養に必要な情報の補足）	開設後の効果検証	地域の医療・福祉ネットワークを含めた医療連携部門の組織のあり方の提案
				【評価指標】 (1)療養支援の必要度が高い患者・家族に対する療養支援看護師によるマネジメントの実施 (2)入退院などに伴う病棟看護業務の軽減効果	
	イ	療養と連携センターの広報周知			
	ウ	療養支援看護師(19名)の確保・育成			

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○入院・検査説明センターの入院説明業務を療養支援センターに集約化 ○療養支援センターにて一部の診療科の予定入院患者を対象に入院前支援の運用を開始 ○療養支援介入の拡充 ○病棟の入院時業務との整合性の検証と業務効率化 《2022年度の計画内容》 ○初診患者への支援、予定外入院患者への支援拡充 ○地域関係機関との連携強化

整理番号	C０２０１	診療科（部署）名	リウマチ膠原病内科（特定診療部門）
取組方策	膠原病・リウマチ診療に関する医療連携体制の構築		
取組内容	膠原病・リウマチ医療を保健・医療・福祉包括ケアシステムに組み込んでいくため、院内の連携を推進しながら、地域連携へと繋げるシステムを構築する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	医療機関同士の症例検討会、情報交換会、研究会の開催			
	院内勉強会の開催			

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○定期的に研究会を開催し、患者の紹介/逆紹介、治療の情報交換を行い医療連携体制を構築 《2022年度の計画内容》 ○連携病院との協議を進め、外来患者集約を推進

整理番号	Ｃ０２０２	診療科（部署）名	整形外科（特定診療部門）
取組方策	運動器疾患の地域連携の強化		
取組内容	大腿骨頚部骨折に始まった地域連携システムを他の運動器疾患に拡大し、地域医療との連携を強化するため、連携可能な医療機関の確保・育成に取り組みます。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	理学療法士、作業療法士の育成支援による連携病院の拡大			
	連携疾患の拡大	大腿骨頚部骨折地域連携パスのデータがかなり多くなったので連携パスの見直し、ﾏﾆｭｱﾙの改訂	骨折の二次骨折予防のために骨密度検査の共用利用の周知	一次骨折予防のため、骨折高リスク患者の骨密度精査を実施し、治療が必要な患者を、かかりつけ医へ逆紹介
	（下肢骨折、圧迫骨折など長期入院が必要な外傷）	（頚髄症、広範脊椎管狭窄など長期入院・専門治療が必要な疾患）	（スポーツ外傷、障害など長期・専門的リハビリを要する疾患群）	

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇大腿骨近位部骨折以外の下肢骨折、腰椎圧迫骨折について地域医療との連携を強化 〇頚髄症、OPLL、脊柱菅狭窄症について周辺医療機関との連携を強化 《2022年度の計画内容》 〇骨密度検査の共同利用を促進し二次骨折予防を推進 〇関係診療科等と連携した骨粗鬆症治療体制の構築

整理番号	Ｃ０２０３	診療科（部署）名	総合診療部（救命救急センター）
取組方策	地域医療の支援体制の充実		
取組内容	地域医療の環境改善と充実を図るため、医師派遣による診療支援や総合診療医の知識・技術向上に対する支援を行うとともに、地域医療を支える人材を育成する。 ア　１人診療所や医師の少ない病院等への支援 イ　総合診療医及びかかりつけ医ネットワークの確立 ウ　病院総合医（ホスピタリスト）の育成		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	総合診療医の確保（1名）	総合診療医の確保		
		支援業務の実施			
	イ	総合診療を行う地域の医師・開業医のリスト作成	総合診療医及びかかりつけ医のフォーラム・勉強会の開催		
				ネットワークの確立	
	ウ	病院総合医育成プログラムに関する研修や視察の実施	病院総合医育成プログラムの確立	病院総合医の育成（年1名）	病院総合医の育成（年2名程度）

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇病院総合医育成プログラムに関する研修や視察の実施 〇医師派遣による診療支援や総合診療医の知識・技術向上に対する支援 《2022年度の計画内容》 〇日本病院総合診療医学会の研修施設申請

整理番号	Ｃ０２０４	診療科（部署）名	放射線部（中央診療部門）
取組方策	地域医療を支える読影機能の強化		
取組内容	地域医療情報共有システムと医用画像情報基盤を活用し、地域における効率的な情報管理と効果的な診断支援を行う。 ア　高額放射線医療機器の有効利用の促進 イ　画像診断体制の強化 ウ　放射線技師の育成と合理化		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	高額放射線機器の有効活用体制の検討	→	→	→
	イ	自宅読影環境の検討・整備 中央病院とつくしが丘病院でのサポート体制の構築	→ つくしが丘病院の電子画像保存	運用開始と評価 紹介患者画像の電子的共有の運用検討	
	ウ	災害対応への人材育成	→	原子力災害医療 災害医療、DMAT等	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇災害医療（原子力災害医療を含む）に関する人材の育成、定期訓練の実施 〇院外読影環境の構築及びテレワークの推進のための検討 〇テレワーク運用の点検・見直し 《2022年度の計画内容》 〇心臓カテーテル装置更新対応、血管撮影装置更新準備 〇災害医療への対応可能人材の育成

整理番号	Ｃ０２０５	診療科（部署）名	医療安全管理室 感染管理室
取組方策	地域医療機関の医療安全対策の推進		
取組内容	地域医療機関における医療安全や感染対策の向上を図るため、医療機関との連携を強化する。 ア　地域医療機関の医療の安全性向上に向けた支援（相互ラウンドの実施） イ　地域医療機関の感染対策の向上に向けた支援（教育・啓発活動）		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	地域医療機関との協議会や相互ラウンド及び研究会の実施	研究会へ2施設新加入（計12施設）	地域医療機関との協議会や相互ラウンド及び研究会のあり方の検討（オンライン会議、運営）	→
	イ	感染管理室の組織再構築 感染管理に関わる人員配置 看護師(1名)の配置検討 感染管理に関わる資格を有する薬剤師・臨床検査技師(各1名)の配置検討	感染管理認定看護師育成 臨床検査技師1名増員 感染担当薬剤師1名育成 院内職員の教育プログラム立案のための情報収集	感染管理認定看護師研修機関への入学支援 → リンクスタッフの育成 地域支援	感染管理認定看護師教育課程修了支援及び専従配置準備 地域の医療機関や介護・福祉施設とのネットワークを構築し、各施設にリンクスタッフを育成する →

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇地域連携加算施設との相互評価による医療安全の標準化の推進 〇感染管理認定看護師資格取得予定者への受験資格取得支援 〇地域への感染防止技術のフィードバック 〇地域連携間の情報交換、研修会のためのオンライン会議の開催 〇リンクスタッフの育成及び地域支援 《2022年度の計画内容》 〇定期的なオンラインでの会議を開催、青森地域での医療安全の質向上を図る 〇感染管理認定看護師教育課程修了支援及び配置検討 〇リンクスタッフの育成及び地域支援

整理番号	Ｃ０２０６	診療科（部署）名	経営企画室（運営部） 地域医療支援部、総合診療部
取組方策	地域医療・へき地医療の支援強化		
取組内容	地域医療・へき地医療の維持・強化を図るため、自治医科大学卒業医師の効率的な配置を行うとともに、中央病院の医師による診療応援を実施する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	自治医科大学卒業医師の効率的な配置			→
	配置医療機関の最適化			→
	診療応援の実施			→
	へき地医療の支援			→
	より良い地域医療のための地域づくり			→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇へき地医療拠点病院の指定 〇県との派遣検討会議等を通じた自治医科大学卒業医師の効率的な配置 〇へき地診療所等への代診医の派遣、症例検討会等の実施 《2022年度の計画内容》 〇県との派遣検討会議等を通じた自治医科大学卒業医師の効率的な配置 〇へき地診療所等への代診医の派遣、症例検討会等の実施 〇三戸・田子連携会議、人事交流の実施 〇三戸中央病院と田子診療所の連携をモデルケースに、その他関係施設の体制見直しについて協議

整理番号	Ｃ０２０７	診療科（部署）名	医療連携部
取組方策	地域の医療機関における医療情報の共有ツールの普及促進		
取組内容	地域の医療機関における医療情報の共有ツールである「あおもりメディカルネット」の利用を促進するため、関係機関と協力しながら医療機関や患者への更なる普及・啓発に取り組む。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	メディカルネット（次期情報共有ツール含め）の普及・啓発 （患者同意948件/年）	（患者同意1000件/年）	次期情報共有ツールの仕組み検討 （患者同意1100件/年）	メディカルネット終了を混乱なく円滑に行う

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇あおもりメディカルネットの利用について2019年は948件、2020年は1142件の同意を取得 〇次期情報共有ツール（PHR ※パーソナル・ヘルス・レコード）を用いた情報共有のあり方の検討 《2022年度の計画内容》 〇メディカルネット終了に伴う次世代情報共有ツール（PHR）への円滑な移行

整理番号	Ｃ０３０１	診療科（部署）名	医療連携部
取組方策	あおもり療養検索システムどこさねっと		
取組内容	患者が住み慣れた地域で、医療・介護サービスが受けられる地域完結型の医療提供体制を構築するため、県との連携・協力のうえ、県内の基幹病院と地域の医療機関や在宅療養・介護施設との円滑な連携に必要な情報の集約化を図る。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	療養支援検索システムの構築・見直し			→
		→	「あおもり療養検索システムどこさねっと」の利用促進と連携推進に向けたコンテンツ作成と広報	→
			病院・医科診療所に加えて訪問看護ステーション、薬局、歯科診療所、介護施設等に対象施設を拡大	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 ○あおもり療養検索システムどこさねっとの構築開始 ○病院及び診療所を対象に情報収集 ○2021年6月から病院、医科診療所、行政機関、保健所等で順次運用開始 《2022年度の計画内容》 ○どこさねっとの運用の拡充

整理番号	Ｃ０３０２	診療科（部署）名	がん診療センター
取組方策	医療・福祉関連施設との緩和ケア連携強化		
取組内容	地域完結型の医療提供体制を構築するため、県内の基幹病院と地域の医療機関や在宅療養・介護施設との緩和ケア等に関する円滑な連携を図る。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	Ｗｅｂ検索機能の構築			→
		（在宅緩和ケアマップの作成・更新など）	→	
	がん診療地域連携推進委員会設置に向けた準備（要綱作成等）	連携に向けた課題と支援の検討 がん診療地域連携推進委員会設置（１回／年開催予定）	がん診療地域連携推進委員会（１回／年開催予定）	がん診療地域連携推進委員会（１回／年開催予定）

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 ○在宅緩和ケアマップ西北五地区第２版と東青地区第７版の発行 ○がん診療地域連携推進委員会の設立 ○在宅緩和ケアマップ西北五地区第３版と東青地区第８版の発行 《2022年度の計画内容》 ○在宅緩和ケアマップ西北五地区第４版と東青地区第９版の発行 ○がん診療地域連携推進委員会の開催

整理番号	Ｃ０３０３	診療科（部署）名	緩和ケアセンター （がん診療センター）
取組方策	地域包括ケア支援体制の構築		
取組内容	地域完結型の医療を提供するため、県の基幹病院として、看取り支援等の地域包括ケアの支援体制を構築する。 ア　地域内看取り支援制度の構築 イ　看護師のアウトリーチによる在宅・介護施設に対する臨床支援や教育支援体制の構築		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	看取り支援制度の実施・評価	看取り支援制度本稼働（事務局青森市医師会） 運用の評価	ICT活用による看取り支援制度の通年稼働 看取り支援制度評価を支援	→
	イ	青森県内の医療機関・介護施設への教育支援の企画・運営・評価	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇看取りサポートチームの試験運用を開始 〇介護施設の看取りに関する研修会の開催 〇医療介護多職種情報共有・連携のためのICT導入 《2022年度の計画内容》 〇地域内看取り支援制度評価を支援

整理番号	Ｃ０３０４	診療科（部署）名	経営企画室（がん診療センター）
取組方策	ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）の推進		
取組内容	患者・家族の意思を尊重した医療の提供を推進するため、患者・家族が治療後の生活について考えながら治療を進められる体制の構築やＡＣＰ（将来の意思決定能力の低下に備えて、患者や家族とケア全体の目標や具体的な治療・療養について話し合うコミュニケーションプロセス。）のスキル向上に取り組む。 ア　地域完結型の緩和ケアの実施 イ　緩和ケアやＡＣＰのスキル向上 ウ　患者の痛みやＡＣＰを院内で情報共有できる体制づくり		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	地域医療者・介護関係者との症例検討会の開催（年2回）	地域医療者・介護関係者との症例検討会の開催（年1回）	→	→
	イ	ＡＣＰ研修会の開催（年1回） がん診療医師を対象とした緩和ケア研修会の開催（年1回） ＥＬＮＥＣ－Ｊ研修会開催	→	→	→
			全ての医師を対象とした緩和ケア研修会開催（年1回）	→	→
	ウ	ＡＣＰを共有できる体制づくりに向けた準備（マニュアル作成、問診内容の決定） 患者の痛みを院内で共有できる記録の整備	ACP問診内容の妥当性調査 電カル更新時にACP内容追加 ACPの問診を一部診療科試験運用開始	診療科の拡大 ACP問診内容の評価	→
			→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇相談員研修会やELNEC-J研修会等の各種研修会を開催 〇人生の最終段階におけるケアと医療に関するマニュアル案の作成 《2022年度の計画内容》 〇ACP問診の診療科の拡大、ACP問診内容の評価、APCに関する院内教育

整理番号	Ｃ０３０５	診療科（部署）名	内分泌内科（糖尿病センター）	
取組方策	職域を超えた糖尿病地域医療連携システムの確立（再掲）			
取組内容	介護の要因（脳血管障害、認知症、フレイルなど）には、糖尿病が深く関わっていることから、介護現場における糖尿病の過小評価による被介護者の臨床転帰の悪化を防ぐため、地域ケアセンター・介護サービスとの職域を超えた人材育成や情報共有などを促進する地域医療連携システムを構築する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	日本糖尿病協会、青森医師会などへの働きかけ	介護職を対象とした研修会の開催	介護職を対象としたWEBによる研修会の開催	介護職を対象としたWEBによる研修会の開催 研修修了者を対象としたskill up研修会の開催
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇介護職を対象とした研修会開催のための準備委員会の設置と研修会の実施 〇オンライン研修会の実施 《2022年度の計画内容》 〇介護職を対象とした研修会開催のための準備委員会の設置と研修会の実施 〇オンライン研修会の実施			

Ｄ　良質な人材の確保･育成と専門能力発揮に向けた体制構築

整理番号	Ｄ０１０１	診療科（部署）名	総務課（運営部）	
取組方策	人材の確保・育成			
取組内容	高度医療・専門医療・救急医療・地域医療支援等、県立病院として求められる医療機能を安定的に提供するため、医師・看護師・医療技術員等の確保・育成に取り組む。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	医師・看護師・医療技術員等の確保	→	→	→
	病院プロモーションビデオの作成検討	病院プロモーションビデオの作成検討（各部局と内容等の検討）	→	ＳＮＳ・動画を用いた広報
	医師・看護師・医療技術員等のスキルアップ	→	→	→
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇青森県病院局、平内町、北部上北広域事務組合、八戸市、一部事務組合下北医療センター、三戸町、五戸町、青森市、黒石市、十和田市の１０団体による共同採用試験（看護師、薬剤師）の実施 《2022年度の計画内容》 〇共同採用試験への参加団体の更なる増加、看護師の派遣等の検討 〇医師・看護師・医療技術員等のスキルアップのための研修派遣等の実施			

整理番号	Ｄ０１０２	診療科（部署）名	放射線部（中央診療部）	
取組方策	画像診断機能の充実・強化			
取組内容	都道府県がん診療連携拠点病院としての診療機能の維持・強化を図るため、画像診断機器の更新・増設及び人材の確保・育成を行う。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	画像診断機器の計画的整備	乳腺撮影システムの更新 一般撮影装置システムの更新 CT検査運用の整備	心カテ装置更新対応 →	心カテ装置更新対応 → 血管撮影装置更新 CT装置更新準備
		読影医師(1名)の確保		
	放射線技師(1名)の配置検討	心臓カテーテル室に診療放射線技師１名の配置 手術場診療放射線技師配置の充実（TAVI配置の準備） 連休時期の変則勤務体制構築	手術場診療放射線技師配置の充実（TAVIに２名配置）	各科手術への対応、災害対応、医療被ばく管理、従事者被ばく管理、医療機器安全、タスクシフト、計画的年休の取得等のためのマンパワー確保（3名の診療放射線技師増員）を検討する。
	X線マンモトーム手技時の業者支援の改善	X線マンモトーム手技時における業者の退去に代わり、診療放射線技師が研修・対応する。	CT、MRI画像処理、解析要員の検討。	→
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇画像診断機器の更新 〇読影医師の確保及び手術場の診療放射線技師配置の充実 〇画像診断機器の更新 〇TAVI運用に係る放射線領域業務の支援 《2022年度の計画内容》 〇機器整備 〇人材育成、時差出勤の施行と運用			

整理番号	Ｄ０１０３	診療科（部署）名	リハビリテーション科（特定診療部門）
取組方策	リハビリテーション組織体制の強化		
取組内容	患者の早期自立・社会復帰を図るため、リハビリテーション技師の育成や病棟への配置により、３６５日リハビリテーションや急性期リハビリテーションを提供できる体制を構築する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	作業療法士(1名) の配置検討	理学療法士(2名) 作業療法士(1名) の配置検討	理学療法士(2名) 言語聴覚士(1名) の配置検討	理学療法士(1名) 言語聴覚士(1名) の配置検討
	土日・祝祭日リハビリの実施	→	→	365日リハビリの実施
	病棟配置に向けた人材育成	→	→	脳神経外科・脳神経内科病棟へのリハビリテーション技師の専従配置
	がんのリハビリテーション研修参加(1チーム4名)	がんのリハビリテーション研修参加(1チーム4名)	がんのリハビリテーション研修参加(1チーム4名)	がんのリハビリテーション研修参加(1チーム4名)

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇土日・祝祭日のリハビリテーション実施 〇病棟配置に向けた人材育成 《2022年度の計画内容》 〇土日・祝祭日のリハビリテーション実施 〇病棟配置に向けた人材育成

整理番号	Ｄ０１０４	診療科（部署）名	臨床検査部（中央診療部門）
取組方策	臨床検査の技術向上		
取組内容	チーム医療に貢献する質の高い臨床検査体制を構築するため、専門性の高い人材や各種検査に全般的に対応できる人材を育成する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	チーム医療(診療等)に貢献する臨床検査技師の育成	→	→	→
	様々な検査に対応できる臨床検査技師の育成	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇各種認定資格に合格（認定臨床微生物検査技師、認定輸血検査技師、超音波検査士、二級臨床検査技師、認定心電検査技師、毒物劇物取扱者、緊急臨床検査士、心電図検定２級） 〇新型コロナ関連検査（PCR及び抗原検査）の開始による診療体制への貢献 《2022年度の計画内容》 〇認定資格受験のサポート及び幅広い検査知識獲得のための臨床検査部内ローテーション 〇聴力検査を実施できる技師の育成、糖尿病教室に携わる技師の追加育成 〇タスクシフトに関する研修会への参加、情報収集、育成を実施

整理番号	Ｄ０１０５	診療科（部署）名	病理部（中央診療部門）
取組方策	病理診断機能の充実・強化		
取組内容	病理診断の迅速化、正確性や精度の向上を図るため、迅速細胞診を導入するとともに、病理システムを改良する。 ア　迅速細胞診の導入 イ　病理システムへのインシデント防止対策機能の追加		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	現状調査 臨床検査技師(1名)の配置検討	迅速細胞診の導入準備 細胞検査士資格取得	計画中止 細胞検査士資格取得	
	イ	病理システムの機能充実に向けた検討	病理システム改良	効果検証	

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇臨床検査技師配置、細胞検査士資格取得 〇病理システムと連携したスライドプリンタの稼働

整理番号	Ｄ０１０６	診療科（部署）名	輸血･細胞治療部（中央診療部）
取組方策	細胞治療に関する幹細胞の管理体制の充実・強化		
取組内容	安全で品質管理した細胞治療を推進するため、細胞調整・保管を担う検査技師（細胞治療認定管理士）を育成する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	細胞治療認定管理士育成		（資格取得1名）	（資格取得1名）
	細胞治療の支援			

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇フローサイトメトリーを用いた細胞品質管理の実施 《2022年度の計画内容》 〇細胞治療認定管理士の資格取得 〇細胞治療環境の整備

整理番号	Ｄ０１０７	診療科（部署）名	薬剤部（中央診療部門）
取組方策	薬剤業務の機能強化		
取組内容	薬物療法の安全性向上と医薬品の適正使用を図るため、薬剤師を全病棟へ配置するとともに、各種専門薬剤師を育成する。 ア　薬剤師の計画的な育成 イ　病棟薬剤業務実施加算の算定		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	感染制御認定薬剤師(1名) 栄養サポートチーム専門療法士(1名)	外来がん治療認定薬剤師(1名) 糖尿病療養指導士(1名)		緩和薬物療法認定薬剤師(1名) がん薬物療法認定薬剤師(1名) ＨＩＶ感染症薬物療法認定薬剤師(1名) 感染制御認定薬剤師(1名) 栄養サポートチーム専門療法士(1名)
	イ	薬剤師(3名)の配置検討 病棟薬剤業務実施加算算定	→	薬剤師1名増員希望	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇薬剤師の計画的な育成 〇病棟薬剤業務実施加算の算定開始 《2022年度の計画内容》 〇薬剤師の計画的な育成

整理番号	Ｄ０１０８	診療科（部署）名	栄養管理部（中央診療部門）
取組方策	栄養管理業務の充実・強化		
取組内容	入院から退院まで切れ目のない栄養管理を推進するため、栄養管理業務の充実・強化を図る。 ア　栄養管理体制（栄養サポート）の強化及び充実とそのための配置と教育計画の構築 イ　がん領域における栄養療法の推進 ウ　地域包括ケアに対応した栄養管理業務の構築		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	栄養状態の適切な把握と評価に基づく栄養管理の実施 正職員管理栄養士の増員検討	外来受診時から手術に備える栄養管理体制を整備	管理栄養士の配置と教育計画を検討 正職員管理栄養士1.5名増員	早期栄養介入及び周術期栄養管理体制の整備 正職員管理栄養士1.5名増員
	イ	がん治療における栄養療法の推進	管理栄養士配置減のため縮小	胃癌術前患者の栄養療法の実施	→
	ウ	地域包括ケアに対応した栄養管理業務の実施	→	管理栄養士による退院支援体制の検討	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇先進施設によるセミナーを受講 〇診療科共通の栄養管理手順を整理 〇栄養食事指導のための指導要領、テンプレートの作成 〇管理栄養士による退院支援の実施 《2022年度の計画内容》 〇早期栄養介入管理加算、周術期栄養管理加算確保に向けた体制整備

整理番号	Ｄ０１０９	診療科（部署）名	看護部
取組方策	看護体制の強化		
取組内容	安全で質の高い看護を提供するため、７対１看護体制の維持及び夜間の看護体制の充実を図るとともに、計画的に専門・認定看護師等を育成する。 ア　看護体制の充実（診療作業補助者の配置により、外来看護のタスクシフトを図る。） イ　認定看護管理者、専門看護師及び認定看護師の計画的な育成		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	急性期一般入院料１(7対1看護)の維持			
		夜間看護体制の充実 12対1看護の取得		診療作業補助者の配置（7名）	（7名→10名） 外来看護師の配置見直し
		夜間100対1急性期看護補助体制加算の取得			
	イ	【認定看護管理者】 ファーストレベル 8名 セカンドレベル　3名 サードレベル　1名			
		【認定看護師】各1名 がん化学療法認定看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師 手術看護認定看護師	認知症看護認定看護師 糖尿病看護認定看護師	【専門看護師】 がん看護専門看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 【診療看護師】１名派遣	感染管理認定看護師

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○急性期看護補助体制加算25対1及び夜間100対1急性期看護補助体制加算の常時取得 ○認定看護管理者、専門・認定看護師の計画的な育成 《2022年度の計画内容》 ○急性期看護補助体制加算25対1及び夜間100対1急性期看護補助体制加算の常時取得、看護補助者充実体制加算取得 ○認定看護管理者、専門・認定看護師の計画的な育成

整理番号	Ｄ０２０１	診療科（部署）名	経営企画室・総務課・医事第一課（運営部）
取組方策	職員の業務負担軽減と労務管理		
取組内容	医師及び看護師等の負担軽減及び処遇改善のための計画を策定し、タスクシフティング等による適切な負担軽減策と労務管理を実施し、医師及び看護師等の医療従事者が専門能力を発揮できる環境を整備する。 ア　医師及び看護職員等負担軽減等計画の策定と取組の実施 イ　システムを活用した適切な労務管理の実施		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	医師及び看護職員等負担軽減等計画の策定と評価・見直しの実施			
		外来縮小や時間外勤務縮減に向けた検討			
	イ	システムを活用した適切な労務管理の実施			

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○医師及び看護職員等の負担の軽減並びに処遇の改善に係る計画の策定 ○１日平均外来患者数の縮小による外来診療時間の短縮 ○タイムカードの導入による職員の在院時間の把握 《2022年度の計画内容》 ○職員の在院時間の分析と各所属への情報提供

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ｄ０２０２</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">情報管理課(運営部)</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">ＩＣＴを活用した業務負担軽減</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">ＩＣＴを活用した業務負担軽減策について、費用対効果を検討したうえで導入する。
ア　音声・ゼスチャ入力デバイスの活用検討（看護記録などの文書作成業務の負担軽減策）
イ　ＲＰＡ（Robotics Process Automation）の導入検討（単純事務作業の自動化）
ウ　看護職員の動線分析の検討（動線分析によるケアの質の向上や労働環境の改善）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>デバイスの試験導入と効果検証
(活用業務の整理)</td><td>→
(臨床での試験導入)</td><td>本格導入の検討</td><td>→</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>ＲＰＡの試験導入と効果検証
(運営部での試験導入と効果検証)</td><td>ＲＰＡに適した業務の探索
希望があれば対応</td><td>グループウェアの利用拡大</td><td>→</td></tr>
<tr><td>ウ</td><td>動線分析システムの試験導入と分析の実施</td><td>本格導入の検討</td><td>→</td><td>→</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇音声入力デバイスの試行運用と導線分析システムの適用シーンの検討
〇RPAの適用業務の探索
〇音声入力デバイスの利用範囲の拡大
《2022年度の計画内容》
〇グループウェア機能の利用範囲の拡大と統一化</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>整理番号</td><td>Ｄ０２０３</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">「医療の質」総合管理センター</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="4">職員が自発的かつ継続的に業務改善に取り組む仕組みづくり</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="4">職員満足度の向上のため、医療クオリティマネージャーのマネジメントにより、職員自らが勤務環境を改善しようとする意識の醸成を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">年度別計画</td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>職員満足度に関する現状分析

医療クオリティマネジャーによるヒアリングと業務改善の活動支援</td><td>→</td><td>→</td><td>→</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="4">《2019～2021年度の取組実績》
〇医療クオリティマネジャーの認定
〇ハラスメント抑制のための専門教育担当者セミナーの開催
〇職員満足度のベンチマークで特に偏差値の低い「職場の雰囲気や人間関係」「適正な評価」「上司への信頼」についての情報収集と分析
〇人材育成に関する教育機会を提供
《2022年度の計画内容》
〇人材育成に関する教育機会の提供
〇職員を惹きつける職場（マグネットホスピタル）との比較分析</td></tr>
</table>

整理番号	Ｄ０２０４	診療科（部署）名	血液内科（がん診療センター）
取組方策	多職種連携による移植医療の効率化		
取組内容	血液疾患に対する診療の量的・質的改善を図るため、多職種連携による効率的な診療を実施する体制を構築（造血幹細胞移植包括支援室（仮称）を設置するとともに、医療従事者のライフステージ（出産・育児等）に応じた働き方を選択できるモデルを検討する。 ア　造血幹細胞移植包括支援室（仮称）の設置 イ　ライフステージに応じた働き方を選択できる体制整備		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	造血幹細胞移植包括支援室の計画（ソフト）	専任移植コーディネーター（1名） データーマネージャー（0名）	専任移植コーディネーター（0名） データーマネージャー（0名）	要再検討（下記）
	イ	造血幹細胞移植包括支援室の計画（ハード）	LTFU研修の実施 （→出来ない） LTFU外来の積極的実施 （→減少）	LTFU研修の実施 （→出来ない） LTFU外来の積極的実施 （→減少）	LTFU研修の実施 LTFU外来の積極的実施 （→看護部・運営部との現状分析と対策）

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇造血幹細胞移植包括支援室（仮称）の設置について検討 〇院内環境・体制の整備について検討 《2022年度の計画内容》 〇造血幹細胞移植包括支援室（仮称）の設置について検討 〇院内環境・体制の整備について検討

整理番号	Ｄ０２０５	診療科（部署）名	臨床検査部（中央診療部門）
取組方策	臨床検査業務の効率化		
取組内容	夜間の検体検査業務の効率化を図るため、検査業務の集約化と検査項目の見直し・統一を行う。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	検体検査室への集約化 検査項目の見直し･統一			

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇１階緊急検査室を２階検体検査室に集約 〇SARS-COV2抗原定量検査の24h検査体制の構築 〇尿中抗原検査（肺炎球菌、レジオネラ）の夜間休日検査の開始 〇機器（VITROS）の運用方法の見直しにより業務効率化を図った 《2022年度の計画内容》 〇緊急検査項目（ERからの大試験管尿の検査）を実施するための教育の実施

整理番号	Ｄ０２０６	診療科（部署）名	中央材料部（中央診療部門）	
取組方策	滅菌業務の集約化			
取組内容	臨床現場の省力化と安全性の確保を図るため、滅菌業務を中央材料部に集約化し、安全な医療機材の提供体制を構築する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	一般病棟からの依頼滅菌物の一元化	外来部門の依頼滅菌物の一元化	手術部使用器械の在庫調査及びデータ化	手術器械管理システムの導入
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇一般病棟からの依頼滅菌物の一元化 〇外来部門の依頼滅菌物の一元化 《2022年度の計画内容》 〇サプライスタッフの配置検討及び依頼滅菌物の順次打刻作業の準備			

整理番号	Ｄ０２０７	診療科（部署）名	中央採血部（中央診療部門）	
取組方策	採血業務の改善			
取組内容	採血待ち時間の短縮及び採血に係る病棟・臨床検査部の業務改善を図るため、業務の見直し及び採血管準備装置を活用した業務改善を検討する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	採血待ち時間短縮策の検討	→	→	→
	採血管準備装置による検体採取の効率化	電子カルテ導入に合わせたシステムの更新		
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇採血ブースの配置変更、看護師配置数の柔軟な対応、システム更新による採血待ち時間の短縮 〇採血待ち時間のさらなる短縮のための検討 《2022年度の計画内容》 〇RFIDの導入による採血管受付業務の時間短縮と医療安全対策の強化の検討			

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ｄ０２０８</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">総務課・経理課・管理課（運営部）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">中央病院とつくしが丘病院の運営業務の一体的処理の拡大</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">病院局の運営業務の効率化を図るため、中央病院とつくしが丘病院の運営業務の一体的処理の拡大を検討・実施する。
ア　物品等の共同調達・契約業務の一体的処理
イ　予算編成・決算・支払業務の一体的処理
ウ　コメディカル分野の一体的運営</td></tr>
<tr><td rowspan="4">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>物品等の共同調達の検討・実施</td><td colspan="3">→</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>予算編成・決算取りまとめ・支払業務の一体的処理の検討・実施</td><td colspan="3">→</td></tr>
<tr><td>ウ</td><td>薬剤・放射線・臨床検査業務等の一体的運営の検討</td><td>実施可能な業務から一体的運営の実施</td><td colspan="2">→</td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇中央病院で稼働中の企業会計システム（会計、予算、固定資産、起債管理）のうち、つくしが丘病院で未稼働であった会計システムを稼働
〇業務の一体的処理の検討
《2022年度の計画内容》
〇業務の一体的処理の検討</td></tr>
</table>

整理番号	Ｄ０２０９	診療科（部署）名	情報管理課（運営部）
取組方策	情報ネットワークシステムの充実・強化		
取組内容	院内の情報システムやネットワーク基盤で発生する医療情報の効率的な利用と管理を図るため、電子カルテ等基幹システムを計画的に更新するとともに、ネットワークを活用した診療行為や各種業務の効率化、情報セキュリティの強化について、費用対効果を検討のうえ推進する。 ア　電子カルテ等基幹システムの更新 イ　ネットワークを活用した診療・業務の効率化に向けた検討 ウ　情報セキュリティの強化に向けた検討		

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別計画	ア	電子カルテ等基幹システム更新 つくしが丘病院との一部システム共同利用 中央病院とつくしが丘病院相互のデータバックアップの開始	→ つくしが丘病院との放射線画像システム連携 →	電子カルテ等基幹システムの本格運用	→
	イ	オンラインカンファレンス・診察システムの導入検討 情報共有基盤強化策の検討（スマートデバイス、ペーパーレス会議等）	オンラインカンファレンス・診察システムの試験導入 情報共有基盤強化策の試験導入	本格導入の検討 本格導入の検討	→ →
	ウ	セキュリティ監視サービスの導入検討	セキュリティ監視サービスの試験導入と効果検証 ２要素認証システムの試験導入と効果検証	本格導入の検討 本格導入の検討	→ →
計画達成状況及び達成見込み		《2019～2021年度の取組実績》 〇電子カルテ等基幹システムの更新 〇Web会議システムの導入 〇ペーパーレス会議の推進 《2022年度の計画内容》 〇タブレット等のモバイル機器による活用の拡大、職員の活用能力の向上 〇２要素認証システムの試験運用			

Ｅ　経営基盤の強化

整理番号	Ｅ０１０１	診療科（部署）名	経営企画室（運営部）
取組方策	経営マネジメントの強化		
取組内容	安定した病院経営を継続するため、経営上の問題・課題の抽出や改善事項の進捗管理など、経営判断に資する指標等を標準化した経営マネジメントによる効率的な経営管理を行う。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	標準化された経営マネジメントによる経営管理の実施	→	→	→
	経営課題等の検討・明確化	→	→	→
	各種会議等を活用した経営課題の情報発信と担当部署に対する対策実施の依頼	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇経営課題等について各種会議等を通じて情報発信し担当部署に対策を検討依頼 〇標準化した指標等に基づく経営マネジメントの継続 《2022年度の計画内容》 〇標準化した指標等に基づく経営マネジメントの継続

整理番号	Ｅ０１０２	診療科（部署）名	医事第一課（運営部）
取組方策	未収金対策の強化		
取組内容	未収金の未然防止及び早期納入のための取組を一層強化するとともに、悪質な未納者に対しては、法的措置等を講じて未収金の解消に努める。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	未然防止の取組実施	→	→	→
	早期納入等の取組強化	→	→	→
	悪質な未納者に対する法的措置の実施	→	→	→
	検討会の開催、回収困難な未収金の不納欠損処理	→	→	→
	民法改正に伴う未収金対策に係る取組の改定			

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇未然防止の取組実施、早期納入等の取組強化、悪質な未納者に対する法的措置の実施 《2022年度の計画内容》 〇未然防止の取組実施、早期納入等の取組強化、悪質な未納者に対する法的措置の実施

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ｅ０１０３</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">経営企画室・管理課・医事第一課（運営部）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">収益確保・経費節減による経営基盤の強化</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">収益性の維持・向上を図るため、ＤＰＣ（診断群分類包括評価）における各種係数の新規取得・向上に取り組む。
また、材料費（薬品費と衛生材料を含む診療材料費）の節減を図るため、業者間の適正な競争を促しつつ、契約手法の見直しや物品管理の強化、職員のコスト意識の醸成等に取り組む。
ア　収益確保の取組
イ　経費節減の取組</td></tr>
<tr><td rowspan="6">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ア</td><td rowspan="3">ＤＰＣ特定病院群の維持

機能評価係数Ｉの取得・維持と機能評価係数Ⅱの向上に向けた取組</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">イ</td><td rowspan="3">情報の収集と業者間の競争の促進及び新たな契約方法の導入検討

在庫管理の徹底及び品目数の抑制と集約化

専門知識を持つ職員の育成及び職員全員のコスト意識の醸成</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇DPC特定病院群の維持
〇材料費の節減、物品管理の強化、職員のコスト意識の醸成
〇病棟薬剤業務実施加算１の取得
《2022年度の計画内容》
〇DPC特定病院群の維持
〇材料費の節減、物品管理の強化、職員のコスト意識の醸成</td></tr>
</table>

整理番号	Ｅ０２０１	診療科（部署）名	経営企画室（運営部）
取組方策	広報・情報発信の充実・強化		
取組内容	開かれた県立病院、信頼される県立病院、魅力ある県立病院を積極的にＰＲするため、ホームページの充実や多様な広報媒体の活用などに努め、患者・医療機関など対象に合わせた効果的な情報を戦略的に発信する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	患者向けの効果的かつ戦略的な情報発信	→	→	→
	医療関係者向けの効果的かつ戦略的な情報発信	→	→	→
	院内職員向けの広報体制の整備・充実	→	→	→
	けんみん公開講座の開催	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇院内の日常のアクティビティ等を情報発信及び採用広報強化のための体制作り 〇SNSを用いた採用情報等の情報提供 〇ホームページのリニューアル及び内容の充実 2019年度:1,086,296件、2020年度:1,223,633件、2021年度5,971,836件 《2022年度の計画内容》 〇採用広報強化の取組を継続 〇ホームページへのアクセス分析によるコンテンツの内容見直し・改善

整理番号	Ｅ０３０１	診療科（部署）名	管理課（運営部）
取組方策	公舎等財産の利活用促進		
取組内容	職員公舎の効率的な確保と運用を図るため、県有公舎の共同利用等を検討するとともに、入居が見込まれない公舎は売却を進める。 また、患者等来院者や職員の駐車場確保に向けた取組を推進する。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	県有公舎の共同利用や民間アパート等の借り上げの検討	→	→	→
	駐車場の確保に向けた取組	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	
	《2019～2021年度の取組実績》 〇県有公舎の共同利用等の検討 〇利用者のいない沢田公舎の売却について検討 《2022年度の計画内容》 〇県有公舎の共同利用等の検討 〇沢田公舎の売却手続き

整理番号	Ｅ０３０２	診療科（部署）名	管理課（運営部）	
取組方策	施設の効果的・効率的活用の推進			
取組内容	医療環境の変化に適切に対応するため、定期的に施設保全管理計画を策定し、施設の有効活用について検討するとともに、院舎・施設の長寿命化に取り組む。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	院舎スペースや敷地の有効活用の推進	→	→	→
	施設・設備の長寿命化の推進	→	→	→
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇療養環境の向上や患者サービスの改善を図るための改修工事等を実施 〇施設維持管理計画の策定 《2022年度の計画内容》 〇療養環境の向上や患者サービスの改善を図るための改修工事等を実施 〇各種点検結果等を踏まえた検討（次期プラン作成）			

整理番号	Ｅ０３０３	診療科（部署）名	管理課（運営部）	
取組方策	施設の省エネ対策の推進			
取組内容	経済性と環境保全の観点から、電力・紙・燃料等の使用量の削減、グリーン購入（環境に配慮した製品の購入）、太陽光発電をはじめとする新たなクリーンエネルギーの導入等を推進する。			
年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	省エネ設備への更新等	→	→	→
	資源リサイクルの推進	→	→	→
計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇省エネを考慮した設備への更新を実施 《2022年度の計画内容》 〇省エネを考慮した設備への更新を実施			

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ｅ０４０１</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">経営企画室、地域医療課（運営部）</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">地域医療構想等の推進</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">地域医療構想で求められている全県を視野に入れた高度急性期病院としての役割に適切に対応することにより、同構想が目指す医療提供体制の構築を推進するとともに、県立中央病院将来構想の実現に向けた検討を進める。
ア　高度急性期病院としての機能強化
イ　関係機関との連携強化
ウ　将来構想の実現に向けた検討</td></tr>
<tr><td rowspan="8">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ア</td><td>高度・専門・政策医療の充実</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>医師等の医療従事者の育成</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>地域医療の支援</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">イ</td><td>医療・介護との連携方策の検討</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>回復期病院との連携方策の検討</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自治体病院等との連携方策の検討</td><td></td><td>青森県自治体中核病院連携研究会の設置・運営</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ウ</td><td rowspan="2">将来構想の実現に向けた検討</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
〇へき地医療拠点病院の指定を受け、へき地・地域医療の支援体制を構築
〇共同採用試験や職員派遣などによる自治体病院との連携・協力体制の構築
〇青森県自治体中核病院連携研究会の設置・運営
〇県立中央病院と青森市民病院のあり方について、「県と青森市の共同経営・統合病院を新築整備する」ことを基本方針とすることを知事と青森市長が共同発表
《2022年度の計画内容》
〇チャレンジプランで掲げる各種取組の進行管理
〇青森市と連携して、共同経営・統合新病院整備について検討を進める</td></tr>
</table>

Ｆ　多職種による質の高い入院医療の提供

整理番号	Ｆ０１０１	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	医療スタッフの量・質の充実		
取組内容	入院患者が安心して療養生活を送ることができる体制を構築するため、医療従事者の確保・育成を図る。 ア　精神科医師の増員 イ　精神保健指定医の育成 ウ　日本精神医学会認定栄養士の育成 エ　常勤作業療法士の配置（県立中央病院からの応援体制の構築）		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア			精神科医師(1名)の確保(累計8名)	
	イ	精神保健指定医研修会参加(2名)	→	精神保健指定医研修会参加(1名)	→
	ウ	教育研修(STANDARDコース)申し込み 認定栄養士研修会受講	教育研修(STANDARDコース)受講	→	4月新任者が認定栄養士研修会受講
	エ	作業療法士配置に係る中央病院との連携(現員3名)	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○精神科医師の確保 ○作業療法士の確保・維持 ○各種教育研修会等への参加・受講 《2022年度の計画内容》 ○精神科医師の確保 ○各種教育研修会等への参加・受講

整理番号	Ｆ０１０２	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	専門性の高い医療従事者の育成		
取組内容	県立精神科病院として求められる機能を発揮するため、優秀な医療従事者を育成するとともに、精神科専門医養成病院（弘前大学医学部附属病院）の連携施設としての役割を継続的に担う。 ア　医療従事者を目指す学生の研修受け入れ イ　新たな専門医制度の研修受け入れ		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	看護師　106名 精神保健福祉士　10名 作業療法士　2名 管理栄養士　1名	→	→	→
	イ	研修医受け入れ　1名	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○医療従事者を目指す学生の研修受け入れ、新たな専門医制度の研修受け入れ 《2022年度の計画内容》 ○医療従事者を目指す学生の研修受け入れ、新たな専門医制度の研修受け入れ

整理番号	Ｆ０２０１	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	医療安全対策の強化		
取組内容	入院中の事故防止や院内感染防止など医療安全対策のため、人員の確保・育成を図る。 ア　インフェクションコントロールドクター、感染管理認定看護師の育成等 イ　ＣＶＰＰＰ（包括的暴力防止プログラム）トレーナーの育成 ウ　医療安全管理者の育成 エ　全病棟夜勤３名体制の構築に向けた検討		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	インフェクションコントロールドクター研修参加(1名)	感染管理担当者研修（１名）参加	感染管理認定看護師の育成	→
	イ	ＣＶＰＰＰトレーナー養成(2名)	→	ＣＶＰＰＰトレーナー養成(2名)及びブラッシュアップ	→
	ウ	医療安全管理者研修参加(1名) 医療安全管理者配置(1名)	→	→	→
	エ	Ａ病棟夜勤3名体制の確立	全病棟夜勤３名体制の維持	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇混合勤務採用、部署配置数の調整により、全病棟の夜勤３人体制を維持 〇感染管理認定看護師の教育課程の修了 《2022年度の計画内容》 〇感染管理認定看護師の活動開始 〇混合勤務採用、部署配置数の調整により、全病棟の夜勤３人体制を維持

整理番号	Ｆ０２０２	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	計画的退院支援の強化		
取組内容	退院後の生活に係る患者・家族の不安解消や受入先確保のため、医療連携室の相談・支援機能を十分に発揮するとともに、病棟による退院先訪問指導を積極的に進める。また、入院患者の計画的な退院を促進するため、クリティカルパスの活用を図る。 ア　急性期の患者における３ヶ月以内の退院促進 イ　急性期以外の患者における１年以内の退院促進 ウ　退院前訪問指導の推進 エ　長期（５年超）入院患者の退院促進		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	退院率60%以上	→	→	→
	イ	退院率90%以上	→	→	→
	ウ	退院前訪問指導 延べ92件	退院前訪問指導 延べ94件	退院前訪問指導 延べ96件	退院前訪問指導 延べ98件
	エ	長期入院患者の退院者数1名	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇病床カンファレンス、在宅移行率確保に向けた多職種による検討チームでの協議、退院後のフォローアップ体制を堅持する 〇退院時支援強化と地域支援事業者との連携強化 《2022年度の計画内容》 〇病床カンファレンス、在宅移行率確保に向けた多職種による検討チームでの協議、退院後のフォローアップ体制を堅持する 〇退院時支援強化と地域支援事業者との連携強化

整理番号	Ｆ０２０３	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	多職種チーム医療の推進		
取組内容	入院患者が退院後も円滑に地域生活を送ることができるようにするため、多職種連携による精神科医療を推進する。 ア　長期入院患者に対するＧＡＦ（機能の全体的評定尺度）評価の実施 イ　クリティカルパスを活用した標準的多職種チーム医療の推進 ウ　栄養食事指導体制の充実 エ　服薬支援の推進 オ　入退院支援における関係機関との連携強化（情報共有シートの整備）		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	１年以上の入院患者に対する評価の実施	→	→	→
	イ	クリティカルパス委員会の設置 クリティカルパスの実践に向けた研修会参加	パスの見直し・修正 →	→	→
	ウ	患者・医療従事者への情報提供 栄養食事指導の実施（24件（2件×12月））	→	→	→
	エ	服薬指導の実施（延べ150件）	→	→	→
	オ	情報共有シートによる情報共有体制の検討	情報共有シートの運用・見直し	→	情報共有シートの運用終了

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○１年以上の入院患者にＧＡＦ評価を実施 ○現行パスの見直し・修正 ○情報共有シートの見直し 《2022年度の計画内容》 ○各担当作業療法士が確実にＧＡＦ評価を実施できるように作業療法評価への組み込みを実施 ○改定パスの試行運用 ○薬剤師の配置 ○情報共有シートの運用終了

整理番号	Ｆ０２０４	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	精神科救急入院料の算定		
取組内容	つくしが丘病院の経営の安定化を図りつつ、精神科救急医療圏における基幹病院としての役割を強化するため、重症の急性期精神疾患患者を受け入れる精神科救急入院料の維持・継続を図る。		

年度別計画	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	精神科救急入院料１の算定 精神保健福祉士（1名）の配置検討	精神科救急入院料１の維持・継続 精神保健指定医の５名以上確保	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 ○常勤の精神保健福祉士１名の確保と精神科救急入院料の算定開始 ○精神保健指定医を５名確保し精神科救急入院料１の算定を維持 《2022年度の計画内容》 ○精神科救急急性期入院料（うち精神科救急医療体制加算）算定に向けた精神保健指定医の確保

Ｇ　多職種・施設間連携による外来医療や訪問支援の展開

整理番号	Ｇ０１０１	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	在宅支援の強化		
取組内容	患者の療養生活をサポートするため、多職種連携によるアウトリーチ（訪問支援）や家族等を対象とした心理教育などの在宅支援を強化する。 ア　訪問看護ステーションの設置 イ　家族心理教育の充実		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	訪問看護ステーション設置･訪問看護実施 （訪問看護年2800件） 看護師(1名)の配置	（訪問看護年3210件） 看護師(1名)の配置	（訪問看護年3067件）	（訪問看護年3200件）
	イ	心理教育の実施 延べ75人(15人×5回)	心理教育実施 延べ32人(8人×4回) うち新規参加者12人	心理教育実施 延べ27人(9人×3回) うち新規参加者13人	心理教育ウェブ開催実施：（1回×20人）うち新規参加者10人 家族教室通信：年2回発行　病院HP掲載　外来待合室100部設置 入院患者ご家族150部配布

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇訪問看護ステーションを設置し、2019年度:2,810件、2020年度:3,210件、2021年度3,067件の訪問看護を実施 《2022年度の計画内容》 〇3,200件以上の訪問看護の実施 〇家族心理教育の実施、家族教室通信の発行

<table>
<tr><td>整理番号</td><td colspan="2">Ｇ０１０２</td><td>診療科（部署）名</td><td colspan="2">つくしが丘病院</td></tr>
<tr><td>取組方策</td><td colspan="5">多様な精神疾患患者への対応</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td colspan="5">児童青年期精神疾患、認知症など多様な精神疾患へ対応するため、専門医師や看護師を確保するとともに、集団精神療法の充実、精神疾患・認知症に関する相談窓口の開設、地域の関係機関との連携強化に取り組む。
ア　認知症サポート医の育成
イ　集団精神療法への参加促進
ウ　認定看護師の活用（心の相談窓口の開設）
エ　認知症看護認定看護師の育成
オ　認知症疾患医療センターの役割遂行及び連携強化</td></tr>
<tr><td rowspan="6">年度別計画</td><td></td><td>2019年度</td><td>2020年度</td><td>2021年度</td><td>2022年度</td></tr>
<tr><td>ア</td><td>認知症サポート医養成研修参加(1名)</td><td></td><td></td><td>認知症サポート医養成研修参加(1名)</td></tr>
<tr><td>イ</td><td>集団精神療法参加
延べ80名</td><td>集団精神療法参加
延べ40名</td><td>集団精神療法参加
延べ40名</td><td>集団精神療法参加
延べ80名</td></tr>
<tr><td>ウ</td><td>相談・生活指導の実施
(230件)
認定看護師フォローアップ研修参加</td><td>(240件)</td><td>(250件)</td><td>(250件)</td></tr>
<tr><td>エ</td><td></td><td>認知症看護認定看護師育成(1名)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>オ</td><td>認知症疾患医療連携協議会の開催
認知症に関する研修会の開催</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>計画達成状況及び達成見込み</td><td colspan="5">《2019～2021年度の取組実績》
○認知症サポート医の育成、認知症看護認定看護師の育成
○集団精神療法への参加促進
○「こころの相談窓口」による相談・生活指導の実施
○認知症疾患医療連携協議会と認知症に関する研修会の開催
○認知症認定看護師の育成
《2022年度の計画内容》
○認知症サポート医の育成
○集団精神療法への参加促進
○「こころの相談窓口」による相談・生活指導の実施
○認知症疾患医療連携協議会と認知症に関する研修会の開催</td></tr>
</table>

整理番号	Ｇ０１０３	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	患者及びその家族との情報共有の推進		
取組内容	患者・家族が安心して利用できる精神科病院となるよう、提供するサービスの内容や医療実績などの情報を積極的に公開するとともに、患者・家族との診療情報の共有化を促進する。 ア　院内広報誌の内容充実 イ　ホームページの内容充実 ウ　院内掲示の充実		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	随時見直し	→	→	→
	イ	随時見直し	→	→	→
	ウ	随時見直し	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇院内広報誌やホームページ等の内容充実 《2022年度の計画内容》 〇院内広報誌やホームページ等の内容充実

整理番号	Ｇ０１０４	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	包括的支援の推進		
取組内容	通院患者の生活能力の向上を図るため、外来作業療法についての宣伝・周知活動のほか、多職種連携によるショートケアを推進する。 ア　外来作業療法の充実 イ　ショートケアの体制整備		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	ポスター及びしおりによる周知活動 外来作業療法参加者延べ936人	→ 外来作業療法参加者延べ936人	→ 外来作業療法参加者延べ936人	→ 外来作業療法参加者延べ881人
	イ	ショートケア利用者数延べ115人/月 新規登録者獲得に向けた広報活動 参加者に合わせた専門的プログラムの作成実施中延べ50人/年	ショートケア利用者数延べ117人/月 → 専門プログラム参加者延べ60人	ショートケア利用者数延べ94人/月 → 専門プログラム参加者延べ130人	ショートケア利用者数延べ100人/月 → 専門プログラム参加者延べ50人

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇外来作業療法の充実 〇ショートケアの体制整備 《2022年度の計画内容》 〇外来作業療法の充実 〇ショートケアの体制整備

Ｈ　健全経営の推進

整理番号	Ｈ０１０１	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	医業収益の確保		
取組内容	入院収益については、診療報酬改定により新設される各種加算の取得、精神科リハビリテーションの充実等により増収を図る。 外来収益については、訪問看護の推進、精神科リハビリテーションの充実、児童青年期医療の強化、認知症疾患対策の推進により増収を図る。 ア　入院患者数（入院収益）の確保 イ　外来患者数（外来収益）の確保		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	入院患者数 105人/日 ※稼働病床150床	→	→	→
	イ	外来患者数 120人/日	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇病棟運用の見直し等による患者配置の利便性向上、各種診療報酬等の取得による収益の確保 〇訪問看護等の在宅支援の充実・拡大、ショートケアや外来作業療法の充実による収益の確保 《2022年度の計画内容》 〇病棟運用の見直し等による患者配置の利便性向上、各種診療報酬等の取得による収益の確保 〇訪問看護等の在宅支援の充実・拡大、ショートケアや外来作業療法の充実による収益の確保

整理番号	Ｈ０１０２	診療科（部署）名	つくしが丘病院
取組方策	費用の節減		
取組内容	薬品の購入価格の適正化、後発医薬品の活用、委託業務内容の見直しなどにより、費用の節減に取り組んでいくほか、今後の入院患者数の動向を見極めながら病床規模及び職員数の適正化を進める。 ア　薬品費の対医業収益費の維持 イ　経費の対医業収益費の維持		

年度別計画		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	ア	薬品費の対医業収益費 20%	→	→	→
	イ	経費の対医業収益費 25%	→	→	→

計画達成状況及び達成見込み	《2019～2021年度の取組実績》 〇経費圧縮等会議による薬品の納入価格引下のための取組みの継続 〇経費削減のための取組みの継続 《2022年度の計画内容》 〇経費圧縮等会議による薬品の納入価格引下のための取組みの継続 〇経費削減のための取組みの継続

青森県病院局運営部経営企画室

青森市東造道２丁目１番１号

（県立中央病院３階）

ＴＥＬ　017-726-8403

ＦＡＸ　017-726-8325

E-mail　kenbyo@pref.aomori.lg.jp